

天保三年

# 西國道中記

常陸国久慈郡留村 大内忠三郎

古文書学習会編



目次

凡例……………	5	熊野大権現……………	23
正月十日一同出立／鹿島大神宮……………	7	道成寺……………	24
成田山不動明王……………	8	西国式番札紀三井寺・補陀落山粉川寺……………	25
〔江戸見物〕……………	9	高野山……………	27
相模国／遊行寺／箱根大権現……………	10	和泉槇尾山施福寺……………	28
伊豆国／三島大明神……………	11	妙国寺・住吉大明神・四天王寺……………	29
久能山東照大権現……………	12	聖徳太子之御廟所・大和国壺坂寺・吉野山金峰山寺……………	30
浅間社／遠江国……………	13	大和国長谷寺・法隆寺……………	31
小夜中山仇討之場所……………	14	南都見物……………	32
秋葉山三尺坊大権現……………	15	宇治平等院・近江国石光山石山寺……………	33
三河国／鳳来寺……………	16	織山観音正寺／三井寺／坂本山王権現……………	34
山中法蔵寺／熱田皇大神宮……………	17	〔比叡山・鞍馬寺・京見物〕……………	35
伊勢国……………	18	丹波国穴穂太寺／摂津国応頂山勝尾寺……………	38
豊受皇大神宮……………	19	摂津国中山寺／西宮大神宮蛭子社・生田森明神……………	39
天照皇大神宮……………	20	兵庫来光寺・上野山須磨寺……………	40
滝原大神宮／紀伊国……………	21	すみよし之松……………	41
熊野新宮大権現・那智山青岸渡寺……………	22	〔高砂／室津／丸亀〕／象頭山金毘羅大権現……………	42
		播磨国書写山円教寺／姫路……………	43
		播磨国法花山一乗寺／福知山……………	44
		宮津／天橋山智恩寺／舞鶴／丹後国青葉山松尾寺……………	45

近江国竹生島宝巖寺／長浜／醒ヶ井／〔中山道〕……………	46
谷汲山華嚴寺／垂井……………	47
諏訪大明神……………	50
善光寺／戸隠・九頭竜大権現社……………	51
妙義山御本社／春名山大権現……………	52
岩船地藏／東照宮／四月二十二日額田着……………	53

## 凡例

本書は日立市郷土博物館が茨城県日立市留町の大内克寿家から寄贈をうけた道中記を翻刻したものである。

原本の判型は縦八・四、横十八・五センチメートルの九十七丁からなる横帳である。

天保三年（一八三二）正月十一日から四月二十三日までの三月余におよぶ常陸國久慈郡留村大内忠三郎の筆になる西国への旅の記録で、道中記、つまり旅行案内書である。

翻刻にあたって次のように表記を取り扱った。

- 1 漢字は、原本が正字を書いているれば正字を用い、異体字だけが現代において常用漢字とされるものはそのままとした。たとえば臺と台が用いられているが、そのままとした。
- 2 変体仮名は平仮名にあらためた。
- 3 合字と二文字以上の繰り返し記号は、平仮名にあらためた。
- 4 あきらかな誤字・脱字は修正し、あるいは補った。たとえば「伯り」を「泊り」のように。
- 5 一般に漢字で表記される地名等の固有名詞が本史料では仮名で書かれていることが多い。それに漢字を宛てる註記をほ

どこさなかつた。また同音による宛漢字についても原本のままとした。理由は旅にとつて文字より音が重要であつたと考えられるからで、誤字とはとらえなかつた。音が異なるものについては註記した。

6 著者忠三郎の訛りの表記はそのままとした。たとえば米原を「まえはら」「前原」と訛りをそのままに表記しているように。

7 とりわけ大きく書かれている文字は、太字にして示した。

8 原文に読点はまつたくないが、適宜挿入した。

9 □は判読できなかった文字、（ ）は、編者の註記である。

10 原本の絵記号は次のように表した。

■は城      ◇は榜示杭または道標を示す。

○

解説は日立市郷土博物館の自主学習グループである古文書学習会である。解説文のワープロソフトへの文字入力は同会の古沢時子が行なつた。

解説に参加した会員は次の通りである。

浅野久子 井上好男 内山晴子 黒羽正之 指野千栄子

立花八郎 古沢時子 堀辺武 吉田武

下りて白馬山

子安の山は古くは因光様之  
持て名号なり

上野の山はくも里東

上野庄名 馬を宿す  
南を宿す

上野の山は里なりと曰ふ跡なき

上野の山は里なりと曰ふ跡なき

馬回山は跡初當其は石七箇  
伏虎多し其より後山は津

津山雲はくも

津山名 急所宿所  
社尾宿所  
若山宿所

津山跡

□ 養雲初泉守

之養成方字多き花

近町跡多し宿山は町あり西に字  
二ヶ園と云ふなり

養雲山松坂山あり

〔表紙 後筆〕

天保三年伊勢大神宮

参拝記念帳

大内忠三郎

天保三年

西國道中

常陸水戸

久慈郡

同行八人

未正月吉日

下土木内村式人

釈迦堂村壺人

石神村式人

豊岡村式人

留村壺人

西國同行八人

石神村

新次郎

勇七

釈迦堂村

久三郎

豊岡村

源兵衛

留村

弥八

忠三郎

百七拾式文 大二吉

正月十一日 晴天

子生弁天 参詣

汲上

濱屋栄三郎中食

觀世音堂 参詣

此所町左後二不動明王、奉納太刀多し

鹿島泊り中屋重左衛門

百八十文つゝ

(改丁)

正月十日 上天氣

豊受皇太神宮

村松太神宮

此所桜屋にて同行一同待合申候

那賀湊壺丁め恵比須や藤兵衛中食

祝町舟渡し五文つゝ

磯濱通り壺丁程行、右之方二道祖神

有、道中安全之ためわらんじ壺足奉

納仕、祈念仕候

夏海泊り藤屋官左衛門

常州一ノ宮

鹿島大神宮

要石場

枯枝に鴉のとまりけり穂の暮

はせを

文政六年未九月日立

此松の実生せし池や神の秋

芭蕉

明和三戌四月日

右要石わかれノ所

下土木内村

白八

忠八

涼しさや神代のままの水の色

雪才

寛政十一未五月日

山中ト甲書

右手洗之場

正月十二日 朝曇り四ツ時開晴

鹿島より息栖え三り

御ものいみ 參詣

此間息栖迄木瀧通

息栖太神宮 參詣

此所町舟宿成田屋弥平次

津宮迄舟路三り 立舟十式文にて

壹貫百文之外ニ茶代百文

但シ六人乗六百文の極メ也

津宮村田屋中喰

片旅籠百文つゝ

香取え十五丁

香取大神宮 參詣

佐原え壹り 尤近シ

左原泊り江戸屋久吉

式百文 大二悪

正月十三日 天氣五ツ時より雨少々

四ツ時止、夜八ツ時開晴

滑川え三り 但し五十丁

左原より滑川之間

下総國並木村

神向寺門前

刈かけし田つらの鶴や里の秋

はせを

坂東廿八番

滑川觀世音

御詠哥

おとに聞滑川寺のけさかふちあみ

衣にてすくふなりけり

成田え三り 但し五十丁

成田後町米屋茂八

中喰 片旅籠六十四文

成田山不動明王

御普請筆紙つくしかたし

奉納

毛網百尋寄進

江戸甚三郎町

鶴野萬三

妻 おとよ

佐倉え三り

佐倉泊り三木や

式百文よし

正月十四日 八ツ時雨少々

大和田え三り八丁

此間清水原、團十郎之歌ニ

天ハちゝ地ハはゝさまのしみつか

な

船橋え三り五丁

此所中喰まつや

片旅籠四十八文

町入口左り方

船橋太神宮 參詣

船橋太神宮 參詣

伊勢太神宮之写、白木御普請

諸方見渡し風景よし

行徳え式り六丁

此所より江戸小網丁迄舟二乗り、沓

人前八十文つゝ、外二酒代廿四文

羅かん前二上ルも有、らんへ參詣

夫より馬喰丁二丁めさかみや喜兵衛

宅え夜五ツ半時分着

正月十五日 晴天風少々

朝五ツ時馬喰丁出、紺屋丁二丁め家

主左兵衛殿宅へ参り、是ハ豊岡源兵

衛実兄にて候、此人案内にて此日見

物致ス、諸大名御登城拜見

西ノ丸下通りきゝやう御門え廻り、

西ノ丸様、夫より酒井様御屋敷、霞

ヶ関安藝黒田之御屋敷御普請、御江

戸随一之御屋敷也、夫より伊井嘉門

様、紀州様御屋敷、夫より四ツ谷赤

坂通尾張様御屋敷、一ヶ谷之八幡宮

え參詣、左り方二正一位茶木稻荷社

有、夫より小石川大手前將軍様清堂

拜見、夫より由島天神、左り茶屋ハ

かけま茶屋也、右へ廻り、池之はた

金丹園、蓮池弁天、上野三枚橋、寛

永寺、兩太師、後え廻り宮様御屋敷、

夫より三代將軍様御廟所跡、夫より

山下へ通ル、藤堂和泉様御屋敷拜見、

夫より山下濱田やにて休息、夫より

日暮二及、案内人ニわかれ、馬喰丁

へ歸ル

正月十六日 朝曇り四ツ時より雨

此日五ツ時馬喰丁出立、朝草え参り、

金龍山觀音參詣、夫より朝草門跡へ

参り、茶や有、名物あま酒、夫より

雨降ル歸ル、御藏前にて梅ヶ香茶漬

九色付、本膳三十六文、かわり八文

つゝ大ニ安し、雨次第フル、無抛は

たしになり、馬喰丁指して歸りける

正月十七日 朝曇り四ツ時開晴

此日馬喰丁出立、旅籠せんべ六百五

十文

程なく馬喰丁出立仕、夫より日本橋

通り脇坂之屋敷、次二仙臺様御屋敷

拜見仕、芝愛宕山え參詣

常藏寺、芝仙客寺、忠臣藏四十七人

石塔、沓人前燈明センとして六文

つゝ奉納

日本橋より品川え二り

品川より川崎え二り半

此間六合渡し 拾六文つゝ

川崎泊り青木彦十郎

百八十文つゝ、大ニ吉

正月十八日 天氣

川崎より神奈川え二り半

神奈川定宿羽根澤左兵衛

此間焼餅坂もち名物

神奈川より程ヶ谷え一り九丁

程ヶ谷定宿 金子傳兵衛  
水や友衛門

程ヶ谷より戸塚え二り九丁

戸塚定宿 青木や中喰

六十四文つゝ

◇武州  
相州國境

戸塚より藤澤え一り卅丁

湯行寺 參詣

小栗判官照手姫、拾人之殿原石塔有

右宝物開帳、沓人前十式文つゝ

右石塔場

うちに居て筆の杖つく雪見かな

馬入川舟渡し 拾五文つゝ

藤澤より平塚え三り半

平塚定宿 泊り米屋又兵衛

百八拾文つゝ

此内大極上飯ヲ森る事ハ御高森の如

し、百日うち類なし

平塚より大磯え廿六丁

大いそ定宿 山城屋稲右衛門

大磯より小田原え四り八丁

小田原かのや中喰

此所虎屋藤右衛門うゐろふ葉、家ハ

八方ハツむね作り

小田原より沓り半程行三枚橋、是よ

り湯本え分ル、湯本定宿 福住、小川

かきる、此二軒ハ内湯也、外ハあし

也、十九日七ツ時分湯本着、福住九

藏泊り、沓人前式百文、湯ハあつし

正月廿日 天氣、四ツ時より風吹

夫より峠二懸り、わらんしを心掛へ

し、尤峠にて日暮候ハ、間宿はたト

言所有、油屋伊兵衛宅ニ泊るへし

箱根名物さんしよふ魚

右峠少し下り

箱根大權現 寺領式百石

別當金剛王院東福寺

案内子供沓人八文にて頼ム

頼朝公富士卷狩之節人別飯たきし釜

式つ有、指渡し四五尺位ヒ

御社向ヒ 左り方ニ横沓里  
たて三り水海有

其岸ニ五郎十郎舟遊之節船つなぎの

石あり

箱根山別當にて宝物拜見

何人にて青銅百足

陣太刀二脇

五郎時宗三条小鍛冶宗近作

十郎祐常義經傳し友切丸

右太刀つば元ニつばせり之大かけ三

つ 式尺余  
三尺余

工藤左衛門をとゝめしたんとふひと

ふり 八寸位

往來え出テ、さひのかわら、石仏数

多有、庵二軒有

箱根御手形、江戸にて御認メ御持參

被成候様心掛へく事

箱根御関所

正月十九日 天氣

右同行之内壺人罷出手形を納、夫より一同罷出一禮して罷通ル

箱根中喰笹屋三左衛門

心得之事、此所宿引多し、此手二付候ハ、必あたまた、かれ候事、若付候ハ、片旅籠ニてくわず、一膳めしかわりいくらと聞てくうへし

◇相州伊豆國境

箱根より三島え三り廿八丁

間宿山中村茶屋有

三島太明神 社領五百石

御本社御普請吉、三階堂前ニ池有、にわとり多し、子供鳥之ゑをうる

三島より沼津え一り半

沼津泊り虎屋伊右衛門

百八十文 中位

正月廿一日 九ツ時雨ふり八ツ時止

沼津より原え壱り半

原より吉原え三り六丁

吉原定宿四ツ目や平左衛門

此所中喰六十四文

■沼津城下 水野出羽守 四万石

此所町家出、千本松原とて大成松山也、六代御前石塔有

右足高山見ゆる

柏原新田うなきかは焼之名物、右池有、富士山を正面ニ見ル、遠目鏡有、ふしの白酒名物、但し十式文位ヒ

立場本市場名物よねまんちう有

米の宮社

富士川渡し三拾六文つゝ

是道中第一之早川也、八ヶ嶽より流

レ出、甲州ハ金なし川、油川、早川

へ落合テ大川となり、水の出時より

出口かわる

此川渡り、七なん坂、吹上坂、上津、六本松、義經すゝりの水、右之方ニ

鳥居見ゆる、右富士川上り岩淵ト言

所くり粉餅名物 壺盆廿四文つゝ

吉原より蒲原え二り三十丁

蒲原泊り八幡屋左平次

百七十式文 中位

正月廿二日 晴天

此日同行之内不快之者有テ逗留仕

候、廿三日出立

正月廿三日 天氣

蒲原より由井え壱里

此間蒲原より蒲原迄之内を田子之浦ト言、此邊女濱ト言テ汐くむ風景よし

由井より奥津え二り 十二丁

若し此邊ニて馬駕籠乗節ハ、久能引

手茶や迄ト定メへし、亦龍花寺廻り

ト定、さなくハ外ニ酒手等貰わるへ

し

奥津より江尻え一り三丁

江尻久能引手茶や中喰

江尻より府中え二り廿七丁

江尻より久能え二り半

清見村清見寺と言寺有

此寺庭よし

名木桜 枝葉十間余四方

庭ハ温水そてつ多シ

村松村大野龍花寺

御庭そてつ 高老丈より壹丈  
五尺位ヒ多シ

鶴龜松 高老丈五尺位  
横五間位

さぼてん 高三尺位  
横五間位

御庭築山也、石段三文程登りて見レ

ハ諸々風景有

十二景

富士泰嶽 三保長淵

田子古風 奥津釣船

清水晴嵐 嶽山返照

久能晚鐘 村松落雁

清見旧跡 兵部夜雨

南方暁色 東海月花

以上

さつた峠 袖しヶ浦

足高山 伊豆大島

細井松原 かいしま

前辰頭 すすき島

右見立八景

此三保松原ハ長耆り、横廿間計、明

神社有、羽衣松むかし天人之衣をか

けし松トかや

久能より府中へ三里

久能泊り名主九兵衛

此所百姓家ニて悪し、なるたけとま

らぬ様ニ心かけへし

廿四日 上天氣

久能山東照大権現

御山景山也、登山石段十七まかり登

りて大門也、此御門内御本社迄三ま

かり、都合式拾まかり有也

久能山之儀ハ御門内御役所有、登山

人数案内人國郡所を記シ、其書付を

役所へ指出し、御役人衆銘々名をよ

ひ、耆人つゝ改御本社へ通ス也

仁王門 これより左右石灯笼也  
皆大名衆寄進也

唐門

御本社

右御普請之儀は日光同様也、御山參

拜之儀ハ旅人拾人を耆組ト定り有、

拾人以上は式組となる也、案内料耆

組式百文宛也、又御山へ登り御石之

間拜見之時ハ拜見料式百文也、御山

役人え案内人より指出し、玉垣之内

へ入、御石之間より拜見いたす也

三保松原哥

今時ハひろひてもなし三穂の浦松

にかすみの衣かかれと 四方赤良句

是ハ前ニ出スへき句也、書落し候故

これへ出ス也

府中より丸子へ耆り半

府中定宿甲州屋善四郎

此所遊女屋式丁、町古昔七町之處江  
戸新吉原へ五町引て、今ハ式丁残り  
有也、通りよりも少し脇ニ有

淺間社 社領式千六百石

仁王門

御本社 富士淺間大権現

末社多し

御普請之儀は公儀御普請、美なる事  
尽しかたし、日光同様トかや、御本  
社惣ほり物ひたり甚五郎之作、繪も  
よふ不殘狩野法眼也

表御門入口ニ案内人有、是ハ無錢ニ  
て案内する也、右 公儀より指出し  
置し番役之衆とかや言也

夫より

安部川 餅之名物壺つ五文つ、

安部川無水 船役所引、尤三十五六  
年ぶりにて川水無しトなるとかや言

鞠子より岡部へ式里

丸子定宿桑名屋善兵衛

此所とろ、汁の名物也

夫より宇都山と言有、宇都谷峠、此  
峠前十團子の名物也、登りよりも下  
り難所也

岡部より藤枝へ壺り廿九丁

岡部定宿小松屋与市

入口ニ橋有、左り田の中ニ御城有

■御城主本多伯耆守 高四万石

右橋之前ニ茶屋有、此所を田中と言、  
此茶屋うつら餅之名物、壺つ三文也、  
大キ安し

二十五日 上天氣

藤枝より島田へ式里八丁

藤枝定宿

藤枝出抜、せと川と言有、此節かり

橋也

島田より金谷へ壺里

しま田定宿紀伊國屋藤兵衛

大井川 四五丁前にて船賃渡ス  
八拾壺文つ、渡ス

且當年は水不足にて流十間余計、壺  
ヶ所也、此川幅十町程之廣サ也

金谷より日坂へ壺里廿九丁

金谷定宿泊り米屋佐右衛門

旅籠百七拾式文 賄よし

◇遠江國

此所にて三夜泊りニなる、尤同行之  
内にて病氣無余儀逗留する也

廿六日 上天氣

廿七日 上天氣

廿八日 上天氣

此日四ツ頃より大西風吹出し大キニ  
寒し

且廿八日明七ツ時米屋出立、宿はつ  
れより登り坂余程登り行て、北の方

ニ富士山見ゆる也、夫より坂を下りて菊川と言所有、此町少し之家なり、宿入口ニ橋有、此橋向南側ニ橋本茶屋と言有、なめし、てんかく之名物也

なめし 壺つ八文

てんかく 壺つ壺文

是ハ安し、且昼頃ニもあらハたへてもよし

夫より坂を登りて小夜中山と言茶屋有、あめの餅名物、壺つ五文

小夜中山仇討之場所、北の方小松原也

小夜姫むけんの鐘は西ニ當りて見ゆる也、向之山見はらしの所ニ茶屋あり、此茶屋ニて遠目かねを見せる也、見料四文つゝ、

此少し前ニ

子生長觀世音有、此堂往還之西側也、觀世音堂 公儀御免御紋付丁ち

ん、まく等御寄進也

向側ニ夜なき松有、此松之元へ音八をそたて養育したる菊女の墓あり

夜なき石 丸ク黒キ石也、高サ三尺、廻り壺丈余也

此石ニ南無阿弥陀と五字之名号ほり付て有、往還中ニある也

此間壺里式拾八丁あり、坂式つ、夫故ニ小夜中山峠式つ坂と言也

日坂より掛川へ壺里廿九丁 日坂定宿黒田屋富三郎

大キサ五分ニ壺寸位  
壺ほん十六文  
わらひ餅名物 白砂糖きな粉

掛川より遠州秋葉山え懸越

■御城  
御城主太田備後守  
かけ川定宿ねちかね屋次郎兵衛

高四万二千七百石

かけ川より森町へ三里

此かけ川町を出ぬき並樹え入、橋ヲ

越、秋葉山入口一ノ鳥居あり 但しから金也、江戸寄進也

又から金灯籠式つ有、是ハかけ川御家中并町ニて寄進也

森町より三藏へ式り半 森町定宿江戸屋

此町山中ニして好町也、入口ニ川有 かけ川より森町之間ニ喰物見へす、

心かけへし、尤森町ニは茶屋多し 三藏より一ノ瀬へ壺里半

三藏定宿かじや泊り 百四十八文也

此村ニ三藏久左衛門ト申者有、右之仁、家康公らんせい之節此者之内

へかけ入、相しのき候事有之、其時之得を以御世相納候後 公儀より右

之者へ三藏壺ヶ村ヲ拜料ニ相成、未夕相傳て栄家也、此家御玉屋并御殿

有、門前ニ駒つなきの松有

森町前より四拾八背川有、森町迄  
ニ式ヶ所渡る、何れも橋賃三文つゝ  
也、一ノ瀬迄ニ四十八瀬渡る也、橋  
賃出し候處六七ヶ所所有、何れも三文  
つゝ、

一ノ瀬より子ならい安へ式り半

一ノ瀬ハ百姓家ニて泊り、悪し、  
泊るへからず、おそくも子ならい安  
迄越へし、尤秋葉山御山ふもとニも  
好宿屋有

二十九日 上天氣、尤朝より西風吹  
九ツ頃御山麓より雨ニなる、尤大降  
ニもあらず、合羽ハ着たれとも笠な  
しニて石打迄行、秋葉山麓なる川、  
北川と言、船賃拾式文、又氷とり川  
とも言

子なら安より戌亥え二り  
戌亥より坂下え拾丁

此所中飯仕候

是より秋葉山御山五十丁登り、此間

老若男女錢貫多し、子供曰、よふた

んな、沓文くんな、御山もかろく御

足もかろくなるやうにおかみますほ

とに沓文くんな、よふだんな、旅人

の曰、錢ハないと言、又曰、御錢が

なうてのんのふまいりかなるもの

か、ずいぶんけつかうなおたんなさ

ん、とふぞ沓文くんな、旅人沓文遣

し、又曰、いたゞいて、道中安全御

家内安全ニまもらせ給ひ、南無三尺

坊様とうやまつてもふす、誠ニ秋葉

路ハ子供うるさし

御山登山、廿九丁め三鳥居、四十七

丁め四ノ鳥居前から金燈籠有、御山

内茶屋一ヶ所有、大杉四十六丁め

有、廻り式丈沓尺、五十丁登ル、内

九十四曲り有、のほり詰てから金ぬ

れ仏有、高サ沓丈五尺余、廻り式丈  
沓尺余、脇ニ歌有

仰つゝふしつゝ月の夜もすから

雪中庵寛來(豊)

二王門前ニ經堂あり

再建立普請大二吉、燈籠かつハ凡

千五百余、皆施主付也

石段上り觀音堂

秋葉山三尺坊大權現

奥院

荒沢不動明王

御普請筆紙つくしかたし惣ほりもの

也

右奥院え三り

御山残らず御朱印地也

權現正面之額は樂茂

禁中様御姫君俊西様御筆

御寺走り三拾六間惣二階

臺所大釜九ツ有、柱ハ沓丈五寸角、

各臺所等入口ニて御札會所有、外ニ

馬屋有、馬五疋立、御普請小屋はし

り五拾六間也、横四間半、此小屋ニ

諸職人居ル、大工、桶屋、元山、木挽、石切也

夫より四五丁下り、左り方ニ高山見ゆ、是ハ家康公三方の原軍之御籠被遊候故山号ヲ名山と号、御山下

り横川と言所有、此所家康公軍砌御茶菓子ニかち栗上ル、依て今ニかち栗献上仕候とかや

秋葉山より戸倉へ五拾丁戸倉より才川え拾丁

此所舟渡し拾式文つゝ、此之川天龍川のみなかみなり

心得ず戸倉泊りにてハ鳳來寺迄おそし、おそくも石打へ迄こすべし

此間大ニ難所也

才川より石打へ一り半

此所泊り森下屋勘藏

百七拾式文弁當付

■濱松城下 水野左近將監 六万石

二月朔日 天氣

石打より熊村へ壱り

此間二峠有、かとり坂難所也

熊より大平え壱り廿丁

此間大平峠登り詰

◇遠州三州國境

大平より巢山え一り半

此所中食 坂本屋 一せん拾式文

巢山より大野へ一り半

大野より五十丁、鳳來寺有

掛越て門屋迄にあげ壱人八人前百三

拾式文也、是ハ頼みてよし、大野よ

り五十丁登、十五丁め迄道よし、夫

より上り廿五丁め茶「屋脱」有、此

所水壺盃式文、茶三文つゝ、上り壺

丁内難所、是を行者帰しと言、夫よ

り道よし

鳳來寺

東照宮社 八幡宮

熊野宮社 弁財天

觀音堂 から堂

三重塔 大沙堂

峯葉師 十二神

右社領千五百石也

宿坊廿壺院あり

岩本院と坊之宝物有

淨瑠璃姫

唐之鏡 馬の角

馬の玉 鹿の玉

龜の玉 龍の玉

瑠璃の臺 以上七品

開帳壱人前六文つゝ、

奥院三社權現、是ハ七つめ山上、右

手岩へ弘法大師六字名号なげ筆也、

下り山兩かわに皆之宿坊あり、門屋

迄九丁

此所泊り柏屋与七

式百文なり

此所大きにわるし、泊りべからず

二月二日 (天候)  
上氣也

門屋より新城へ三り半

此間瀬川渡し五文つゝ

新城より大木え二り半

此所中食おわり屋市右衛門

門屋新城間竹廣村申候所、新間町福

來寺ト言寺に竹田信玄の墓有、毎年

七月信玄の施餓鬼有、通り右かわな

り

大木より東海道御由宿迄二り廿丁

御由より赤坂え十六丁

御由定宿梅屋

赤坂より藤川へ式り九丁

赤坂定宿池田屋

此所遊女有て女郎共まこと二多し

山中法藏寺 寺領二百四十石

此寺家康公御手習をいたせし所な

り、御庭ニ御草紙かけ之松有、此松

我天下ヲ取迄ハ上へむくまし、我天

下ヲ取候得は上へむくへしとあり

て、上へむひてあるなり

卷上り八幡宮 社領貳百七十石

此之八幡宮之御山へ家康公名勝、寺

遊之節此御山へ御かくれ、其時鳩飛

出し、夫より杉うつろにて氣方物心

ゆるし、夫より家康公しのき處也、

夫ゆへにまき上り八幡とゆふ也

是藤川え通り道より左り二見る

藤川より岡崎へ一り半

是ハ藤川宿みとりや泊り百四十八文

二月三日

■岡崎城主本多中務 五万石也

右岡崎橋式百八間有、道中第一之橋

也

岡崎より池鯉鮒へ三り卅丁

岡崎定宿大津屋勘介

池鯉鮒大明神

御手洗ニ鯉鮒多キ故、所の地名と号

に、四月三日祭禮有、其月閏有八閏

月ヲ用ゆる也

夫より川有、此河參州尾州境也、立

婦今畏名稱有

落合村松原通り右方二千人塚有、左

之方桶挾之合戰場、今川義本討死場、

石碑有、三丁廻りかけ抜け

池鯉鮒より鳴海え二り卅丁

池鯉鮒定宿見立へし

鳴海定宿大和屋市衛門

泊り百四十八文

此所鳴海しほり直段高し、買しから

す

二月四日 天氣大風也

鳴海より宮へ壹り半

熱田皇太神宮

御本社掛ヶ拔壺町廻り、神馬有、二

王門入、左りわ石灯籠有、是ハ高壺

丈九尺、佐久間太膳守寄進、誠ニ昔

□ニてよし、態々物見すへし、御普

請中位也、外二とふるふ多し

宮より名古屋へ一り半

名古屋定宿本丁六町目桑名屋半右衛門

■尾州御城下町ハ江戸ニひとし

六拾壹万九百五拾石

御三階上金さち銚高サ壹丈□□

名古屋甚目寺二り

甚目寺觀世音參詣

是も普請中位

甚目寺より津島へ三り

若此所より馬乗時ハ津島迄と言乗へ

し、馬子ハ川端迄と言、其川端ト言

は壹り前なり、此事心得べし、津島

入口宿引出て桑名迄舟定べからず、

下十五日上十五日ト佐谷、津島かわ

りと言、皆偽也、おそくも佐谷迄こ

すべし

津島牛頭天王

御普請吉、諸國灯笼寄進多し

佐谷迄十八丁、此所泊り

たち花や源六百八十八文

是より  
◇い勢  
尾州國境

二月五日 天氣

佐谷より桑名迄船壹艘四百五拾文、

乗合廿九人ナリ、宿出口御番所手形

納、宿よりは是迄案内致し人数改メ仰

渡し有、旅人平ふくして、右ハちん

せん相濟申候間、若舟頭共酒手かま

しき事など却て指出申事あたらす、

若りふしんに酒手言かけ候ハ、桑名

御役所へ訴出へく事、亦佐谷迄舟を

もとせともゆふ、夫より此□□□二

御座候、夫より廿丁行て舟ニのる、

壹人前四拾八文つゝ、夫より行、桑

名え九ツ時ちやくせん仕候

■桑名御城下松平下總守 拾万石

桑名定宿 佐渡屋彦八  
京屋小兵衛

能城下也、浦通り春日社有、相應、

御城下え入海ニして皆船入津也、く

わ名、右ニいせ兩宮之一之鳥居有、

此間松並、茶や、焼蛤之名物、なま

焼御用心之事壹つ四文

四日市より追分へ壹り半

四日市定宿 きの國屋金四郎

江戸屋 彦兵衛

追分より神部へ壹り半

神部より白子へ壹里半

かんべ定宿 指屋九右衛門

木薬屋仙右衛門

■白子御城下本田伊豫守壹万五千石

白子より上野え壹里半

白子定宿白子屋藤衛門  
百五十文泊り

二月六日 天氣

子安くわん音寺内二兜桜有、極て名

号有

上野より津へ式里半

上野より津へ式里半

上野定宿 萬屋源四郎

南屋庄兵衛

上野より壹里程行高田門跡道有

◇右高田門跡道 五六丁廻り也

高田御門跡、本堂廿四間十七間、諸堂多し、津へかけ抜け夫より津

津より雲津へ弼り

津定宿 龜屋佐兵衛  
野口屋吉衛門  
若さ屋六右衛門

津御城下

■藤堂和泉守

三拾貳万三千九百五十五石

御町能、通筋七拾貳町有、西國

三十三ヶ國はたかしら也

雲津より松坂え式里也

くもつ定宿柏屋徳次

◇右伊賀越 月本茶屋

◇はせ越 六けん茶屋

松坂よりおはたへ四里

松坂定宿西町米屋 大すかや彦兵衛  
甚衛門  
大和屋与兵衛  
百五十文

松坂能町也、通り五拾丁也

■御城下 紀州御家老 □高六万石

松坂名物紙合羽類みせ有、此所へ内

宮御師向出ル

間宿

くし田船渡し、老人前八文つゝ、

くし田定宿 若葉屋九郎衛門  
米屋 太郎兵衛

稲木川船渡し四文つゝ、

稲木良入名産、本家つほ屋清兵衛

明神前

夕立やいせの稲木のたばこ入ふる

なるひかるつよいかみなり

明じゆう茶屋女二よひもありゑり

方見ればあか月もあり

新茶屋定宿 小田屋淺右衛門  
いつみや吉兵衛

おぼたより山田へ壹里

小幡定宿 川問屋藤兵衛  
せにや藤十郎

宮川は山田の入口、永代無錢渡し

此川は太神宮の御みたらしとかや、

此川にて身を清メ子共代こりをすゝ

めるな也

ありてけふ宮川のゆふかつらなか

き世までもかけてたのまん

此宮川にて毎年五月三日年魚を取、

兩宮奉る

山田町より内宮へ五拾丁

山田名物春慶ぬり物か名物

豊受皇太神宮 老人にて壹分一朱文

此所二半御供 金貳朱文御供代

同三朱文おとしもの也

外二四拾業社、御本社萱ふき、南向

前二池有、日本清水の始と言ふ、每

年九月十六日十七日御祭禮有、此日

出家參詣御免なり

風の宮より右天岩戸へ坂九丁有、此

山を神路山ト言、夫より正一位稲荷、

鳥居の数五百余、其外小鳥居数しれ

ず、御師より案内出

(二月) 七日 天氣

二月七日(八カ) 天氣

岡本町、妙見町、夫より合山、外宮間之山おすき居候、衣服ハ絹ト見へれ共皆木綿也、三味線、こきうヲ引、古市遊女屋町家造りよし、中ノ地藏、左リ二川ら、右手谷、宇治橋五十鈴川と言

天照皇太神宮

八十末社

同行之内代参有て拜見ヲ願、御門の内ニて拜、御神酒ヲ頂戴、御供共ニ頂戴仕候、夫よりふし穴有テ御本社ヲ拜ス、夫より末社ヲ廻り、自是朝熊岳へ七十丁、此間ニ茶屋有、遠目鏡ニて伊勢大湊二見ヶ浦景を見ル、四文つゝ

虚空藏菩薩

御普請よし

奥院地藏尊 三丁

あさま

万金丹店 本家野間幡□□  
二見ヶ浦へ五十丁 内吾丁下り  
此間舟渡し有、四文つゝ  
二見ノ茶屋ニて中食  
是ハ久保倉太夫より中食代出也  
金式朱文、是ハ半御供代也  
同三朱文、是ハおとしもの也  
二見ヶ浦風景よし

太夫内宮之町入口迄案内、くらの馬八疋出ル、あさま參詣、帰りニ相成候て又此所ニ馬廻り、二見ヶ浦拜見仕候間馬ハ直ニ帰し、八疋へ酒代トして金沓朱文遣しけれ、六ツ時帰ル、太夫より燈ちんもつてむかい出ル、夕ニノ膳付酒出候

此夜古市へ案内かりて杉本屋ニて伊勢おんとを見る、花代何人ニても金一兩、女郎衆廿四五人、藝者四人内小弓沓挺おとり、子衣服は指淺黄ち

りめん、帯ハ黒しす、其外色々あり座敷ハ四十五丈敷、五色のまくヲつり、客のせきへハひもふせんをすき申候、蠟燭五十目位三十丁付あさかほしよく臺五本、ぼんぼり廿五付、誠ニ吉、御茶茶子出ル、是によてまことニ大さわきなり

二月八日(十カ) 天氣

此所七日より十日迄とふ龍仕候夫より十日四ツ時立申候、夫より荷物同行一同夫より扇屋庄七のてだい貫目かけ渡し申候、伊勢より京都まハす  
田丸より原へ一り

此所舟渡し有、是ハ宮川之下成、是も舟錢なし、夫より田丸町中ニてめしこふりなともかい申候、同西國三十三番うま上道のり之本百六拾四文位ニて御もとめなざるべく處用、

此所田丸御城下成、すくにはせ道、

坊多し

長しま入口、船渡し六文

左りくまの道、次二かの之松原、原

連理柳 鳥居杉

長島よりミウらへ式り

東入口

屏風杉 夫婦杉

宿有、まのや次郎太夫泊り

原より大かせへ一り半 巡礼手引觀

兄弟杉 子持杉

二月十二日

音世音有

三色杉 上枝杉、中松  
下檜、~~×~~三色也

まつや中食

三杉

三浦よりうませえ一り

村はなれて右ハ高野みち、左り立石

四杉 案内子供三文遣

はしかみ坂

くまの道

野尻よりあそへ一り

馬瀬よりこのもトへ一り半

大かせよりとち原へ一り半

あそより柏野へ壺里

宿升屋平衛門

このもとよりおわしへ壺り半

間町下楠村くまの屋久兵衛泊り

あそより柏野へ壺里

宿升屋平衛門

宿山城与七

百四十八文

宿たばこ屋半藏

此所川有、大水ニハ川上ひんの村、

(二月十二日)

柏野よりさきえ半り

船渡し賃三文

とち原よりあをへ一り

此所川有、大水ニは左り廻り也

まこせ坂壺り、難所、峯二天狗岩と

あをよりみせへ一り

さきよりこまえ半り

いふ有

見せよりのしりへ一り

川有、大水ニ右え廻り也

おわしよりみきゑ三り

見せ宿米屋左兵衛

こまよりまゆみえ壺り也

宿新宮屋仁左衛門

此所ミせ川舟わたし二文、此川ハ宮

宿西村平助

是より新宮迄廿り、此間ヲ八き山越

川の水上也、次ニミせ坂十二丁、坂

真弓より長島え二り

といふ、登り五十丁、下り卅八丁、

に弓はり松といふ松あり

峠有◇伊勢 國境

なん所也

瀧原太神宮

是より熊野路

八鬼山日輪寺

三鬼よりそねえ式り

宿ふじや甚太郎泊り

此所入海、そねえ船乗てよし、廻れ  
バ二りのなん所也 船ちん廿八文位也

二月十三日

そねよりにきしまえ一り八丁

太郎坂次郎坂有

二木島よりあたししか一り

宿岡田屋安衛門

大かみ坂

あたしかよりはたすえ一り

大ふき峠

はたすより大とまり一り

大とまりより木本え半道

木本よりありまえ半り

宿ふしや源藏

ありまよりいつき半り

いつきよりあたわ壺り半ん

あたわよりいた村半り

いた村より新宮一り半

いた村ニ泊り、木ちん也、廻り番ニ

て宿不定

二月十四日

新宮入口川有、舟ちん廿五文

熊野本宮より此ノ所迄新宮紀州臣水

野美濃守三万七千石、よき城下也、

板材木等川岸たんと、大船出来合等

見いル

熊野新宮大権現

十二社有、天神七代、地神五代

末社多し

常州之御師山役せん百三十三文つゝ

出ス、そふめん酒ちそふ遣る、案内

壺人出る

熊野路ニてたはこヲつはきのはを丸

ふして呑を見る、小店ニて拾枝一文

くらいニて賣

歌 くまの路ハきせるなふて須間之

浦青葉くわいて口かあつもり

みわ崎うくい一り

此所ほじくると那智黒といふこいし

有

こくし峠、大丁峠

うくいより濱宮五十丁

宿湊屋長左衛門

濱宮より那智山五十丁

那智山御山拾八丁登りて瀧有、深山

ニして峯高くす、千丈より瀧落る音

いかつち如し、瀧より二丁もとりて

本社登る

那智大権現 新宮、本宮、那智山

三くまのといふ

西國第一番札所

那智山青巖渡寺

禪宗寺三拾六坊

常州那賀那坊龍壽院廊之坊、式百五

拾文山役せん出ス、是はぬけ参り百

廿四文ニてよし、吸もの、そふめ

ん、酒等出ル、夜入坊ニ泊ル、落し物一朱文位、地走よし

那智山ノ禪宗なれ共權現之守ル故か女房も有り、本堂辰巳向五間四面

二月十五日

朝目出度登山して御尊像え奉向、同行一連巡禮前ニこし打懸ケ納めおゆつる着し、手ニしゆつをもち

ふたらくやきしうつなミハ三くまの、なちのおやまニひびくたきす

ゑ

と申御詠歌奉上ケ口む出せまり、こい不出して涙計、只心のうちてとなふるのみ

是より小口え四り

船見峠大きくとり小くもとり大峠也小口より半道前ニくす久保といふ有

くすくほ宿新宮屋直吉

小口よりうけ川え三り

七尾七まかりさくら峠  
請川より本宮半り

宿千歳屋平助

本宮より湯之峯廿五丁

本宮御師小中東大夫泊り、御地走多

し、吸物酒迄出ル、同行八人金沓分

二朱文置、外二山役せん等不出、不

泊連も小中東大夫尋可申、札請案内

出ル

(二月十六・十七日カ)

熊野大權現 末社多し

天地十式神社

尾崎太夫ニ宝物有

何人ニても百廿四文

弁慶をひ、古物破損してうしろ計

和泉式部鏡

土佐國 寶永參年二月吉日

宝納劍画 上野大拯國益作

妙沢老人

小口宿市坪惣吉

不動画 楠石

湯花石

曾我太郎願文

よろいおとし宮御召

よろい五色おとし

陣大刀ひとふり

是は頼朝公御太刀申せ共、全は秀頼

公御太刀也

ふち頭しやくとふ綸子金五七桐、高

日か紋三分位、つは金福りん、かた

はみ二五七桐ちらし、身は古物と見

ゑれど、さひ見へす、みたれやき、

さや金色、金紋惣ちらし、式尺七八

寸目立造り

熊野山え和泉式部

七十式度参りし二月のさわりとな

り、鳥居より入事ならず

晴やらぬ身にうきくものたな引て

月のさわりとなるそかなしき

本宮様あらわれ給いて

元よりもちにまじわる神なれば

月のさわりはくくるしかるらん

和泉式部御參詣遊せしとかや

中納言定家公

千はやふる熊の、宮のなきのはハ

替らぬ千代のためしにそをる

熊野本宮より湯峯え廿五丁

拾七丁登りて車坂、此所小栗判官く

るま納メし所トかや、むかし小栗判

官兼氏といふ人鎌倉住居ス、永京六

年春の頃悪人之為とく酒にてやふら

れそう身ひきつり二目と見られぬ有

様、妻照手夫のなん病をなきかなし

み、山二川をいとわす、くるま二の

せ引來り、湯あみする事七日、右病

氣へいゆして、所車を納メ所を今祭

る也、はおんせんの起こりしらしめ

ん為也、誠二日本第一名湯、今二此

湯入いざり車を捨て帰る者すくなか

らす、其外諸病なをるしり、是へ泊

り入湯ス

此所定宿されたかたし、廻り番こと

める也、湯近之宿え不泊と申て入湯

いたし、夕方二とまるかけ合すべし、

ひる付式百五拾文

湯峯より湯の川え忒り半 山道也

湯の川よりの中え忒り

宿おもや惣助

此日大風雨にてなんきいたし、の中

にやとる

二月十八日 晴天

近露よりたかハラへ 二り十丁

宿ひろや十衛門

高原よりしばへ半り

芝人口川有五文

高原宿大や長太郎

芝より中みすへ二り半

宿大倉屋仁平次

みすより田邊一り半

宿富屋祐助

田邊よりみなべ忒り

田邊は紀州臣安藤帶刀、三万五千石、

町家よし、此邊は白魚、若あゆたん

と有、田邊杉屋和衛門二泊り

二月十九日

みなべよりきりべえ忒り

宿田中屋弥助

きりべよりいなみえ半り

宿くわしや卯衛門

此所きよ姫ぞうり塚有

日高川舟ちん十文位

小松原より原谷え三り

宿角屋与市泊り

道成寺

石段廿式段登りと  
二王門、本堂七間四面

二重堂つりかね埋メしハ御堂前左り

二有

奥州白川の住安珍といへる僧、年頭の願にて熊野詣し二紀伊國いなミ村

庄司といへる者之家二宿をかりしに、庄司娘幼ききうじ出しを安珍何心なくのちにいたらハわかつま二せんといへるとなん、其のちみとせ計過て又も熊野詣二庄司か宅え尋、一夜をかりつ、其夜一間之内え豫之娘きたり、安珍え寄添て、わらハいとけなき時それえのいたし事覚あるへし、有ければ安珍もきりせまりけん、一夜の遊を替し清姫妻二ならんものと言けるをいろいろすかしたまして夜まぎれてにけ出しける、清姫跡より追かけ熊野道者ものとひバ、なふられいと、おもいやまさりけれ、はきしそふりも抜捨て、跡をしとふて日高川二きたり、此川渡しくれやとい、し時、もはや面てい替りしとかや、安珍此渡し越る時跡より女子尋來らは必渡しくれなと小金をあたひ頼ミけれハ、清姫不越なをいかりて、

さあらハ此川を越さん、何程の事あらんとかたへの柳二着物かけ、水中え入しと見れハたちまち形を化して大しやとなり、日高川を渡り大池のにをいをかへて西をさして飛か如く道成寺えかけ入、方丈えこの次第咄しけれハ、ふひん二思え安珍をつりかね内えかくし置し二、清姫おそろしき有様にてつきかねを七重二まきりうつくわい、あなうらめしやと火えん吹かけけれハ、いたましや安珍は鐘諸共二とろけけるとなん、夫より安珍、清姫夜な夜な方丈の枕元二参りければ、方丈ふひん二思ひ、兩人の為二ほけきやうを上ル、難有とて蛇たひのなんをのかれ、淨佛せしとかや

#### 清姫十三才時

さぎの世のちきりのほとのみくまの、神のしるへもなをなかるへき

#### 安珍清姫え返し

三熊の、神のしるへときくからに  
なおゆくすへのたのもしきかな

原谷よりいせきへ弐り

宿松屋嘉助

井せきよりゆあさえ壱り

宿ふじや茂次郎

湯淺より宮原え一り半

宿茶屋久七

ひはり山得生寺

中將姫古所宝物十式品有

壱人前二付十式文つゝ

宮原よりかも谷え一り半

宿紺谷勘兵衛泊り

此日二月廿日 雨天

此邊みかんの木たんと有

紀ノ國みかん名物也

かふら坂五十丁、坂ノ上二弘法大師

つめにて石えほり給ふ地藏尊有

かも谷よりひかたえ一り半

宿日高屋左二衛門

し 翁

紀三井寺和哥浦十八丁

藤代峠 上り十九丁  
下り廿五丁 御所芝

船二乗ル、壱人前拾八文

此所高くして風景よし

紀三井寺之詠歌也

淡路島、和歌浦、玉津宮、紀三井寺、

古里をはるはるこゝに紀三井寺花の

若山目ノ下二見、風景いわんかたなし

都も近くなるらん、といへる詠歌を上るゝにつけ、是までの道すから思ひやり、花の都もちかきニやと心い

粟島大明神

藤代權現社 是迄を  
熊野路といふ

さみ、紀三井寺を乗り出す

此所鈴木三郎家今二有

玉津島大明神

ひかたより紀三井寺え壱り半

伽能山 袖こしの堀

宿笹屋忠兵衛

鏡 山 三ツ橋

此邊ぬり物名物、紀州ぬり出る所かや

かた尾浪 和歌天神

西國貳番札紀三井寺

本照宮、いろいろ有共りやくス

金剛宝寺真言宗寺七軒

紀州和哥山 紀州公  
五拾五万石

堂南向九間四面、諸堂たん

本町三丁目藤屋源右衛門泊り

本堂前より和哥之浦景一目見おろし

是ハよき宿

見あくれハ桜しもふて紀三井寺

(二月二十一日カ)

翁

常行堂かけ造りといへる也

しくるゝやしくれぬ沖之帆はしる

宿屋たん

和哥山よりかたあわしま三り、又和歌山えもとる也

都合六り之廻り、かたより一り前二粉川えちか道もあるなれと、それと

ても五り半程のまわり、あわしま參詣心ニまかすべし

少名彦尊

海邊二有、是より金ひら船すゝむ、必も乗るなけれ

かたよりいわてえ五り

若山よりいわてえ三り

いわてよりねころえ一り半

根頃不動尊

諸堂たん

ととかや

粉川え二り

西國三番札紀伊國

補陀洛山粉川寺天台宗

寺領百四拾六石、本堂南向十五間四

面

粉川よりおうつえ一り

二月廿二日

宿かなや茂兵衛泊り

大津よりしかえ式り

宿なてや政衛門

しかより花坂え式り

花坂より高野山大門迄五十丁登り

花坂宿 糶屋元衛門  
角屋十衛門

此花坂茶屋二何國な二郡と申、何郡

といえは□二社人行

久慈郡と申せば法しやく院の帳面

有、此茶屋にて同行中何之坊えつく

といふべし

御先祖はわたくし方杯と帳面持參

致、同行別々に坊え付心懸ケニいた

すべし

茶屋にて酒出ル、案内一人出ル、酒

代案内せん不出

けさかけ石 かといし

こしかけ石

弘法大師御母公子之登る山え登られ

ぬ事之くやしさとねりし石大師御爪

にて石えほりつけ給ふぼふじ有

鏡石、顔うつる也

高野山大門白木造り、西向式拾貳間、

家根赤かねかわら、此門より女人き

んせい、前二女人堂有、女人泊り之

節は坊より地走女人堂迄はこひ出る、

中門迄廿丁、奥院迄五拾丁

大門より兩かわ町家、宿坊

二月廿三日

宿坊清淨心院え着

金百疋にて先祖代々茶はいス

同行中思出し二頼也

二膳にて地走、明朝はさとふ餅、ひ

るそふめん、よい二も酒さかないろ

いろのちそふ、砂糖餅沢山にてくひ

余る、あつき「き脱」なこ也、ひる

二持參之節きなこ無用、あつきよし

大堂 拾五間四面 柱式尺五寸角

金堂 十四間四面

六角堂 西堂

高野三社大権現

是は高野山地主也

東照宮 御神廟

和合院二かちとり不動尊

遍照光院二こけら不動

清淨心院二廿日大師

是迄諸堂多し

少し行は大橋、これより御廟所迄式

拾町

是より左右二石塔

天子軍諸大名古今名將勇士并町人石

塔幾千万といふ其数、石は何らも五

厘形也

玉川大は□  
み□□

わすれても汲やしつらん旅人の高

野の奥の玉川の水

蛇柳 中のはし

願かけ桜 木食堂

木食上人より御重念うける、六人上

ル

御廟之橋

板敷三十七枚  
裏二ぼんじ有

燈籠堂方燈二ひん女の一燈

此所にて弘法大師の御しゆついた、

く、但しさんこ之内

奥院御廟所

承和二年三月廿一日

弘法大師御入定所也

大門堂 是はこつ持參之者納メへし

前二形見井有

清淨心院二坊主凡十三人にて會向

ス、茶わいにてもくわつわいにても

施主しようこふス

また廿日大師の開帳奉拜

二月廿三日 八ッ時着ス

二月廿四日 九ッ時出立ス

高野山よりかみ屋迄五十丁

蜀岩石有、親のふミし跡をふみとふ

るいふ

慈尊院より大はたえ式り

弘法大師の御母公御廟所也、いろい

ろ宝物有

紀の川の渡し永代むせん、然し船頭

酒手といふ、三文遣ス

大はたより槇尾え式り

大はた百姓家にて宿あし二此

所にとまる

二月廿五日 雨ふり出立

是より槇尾迄山坂なん所也

◆紀伊 和泉 河内

槇尾奥院光龍寺龍光院宝物

開帳八文奉納、本尊瀧より出現、黄

金仏

楠正成

うわはみ皮 鬼の牙

天狗の爪 其外いろいろ有

わすれ候故覚候分印ス

西國四番札納メ

和泉槇尾山施福寺

天臺宗、寺中七軒、本堂南向五間二

七間

弘法大師御剃髮此寺也

槇尾より横山え五拾丁

下り坂ニしてあし也

横山より山田え三三

此間川有、いけた川

上野原といふ野有

山田より堺え三三

堺より大坂え三三

堺宿ぬしや治兵衛泊り

堺より大坂迄見物多し

二月廿六日

二月廿六日

堺より見物先 刃物るい、打物名物、

鍛冶家凡千六百軒程といふ、いつれも菊一文宗四郎、皆本家也、九間町鍛冶元平兵衛方よきと申也、刃物買へからず、直段高直也、堺直段にて求候へハとこて買てもぎれる也

妙國寺 そてつ誠二大也

秀吉公大坂え御引被遊候所、妙國寺こいしやと毎夜聲をはつす、依て妙國寺えもとす、そてつえ六十石御朱印付

鷹合屋といふ茶屋松

なにわや平兵衛といふにてこもちをうる

松 高サ一丈、東西十五間余  
南北十八間余

是をなにわやのまつといふ

住吉大明神 大社也

社領貳千百石

諸宮多し

峯の姫松

天下茶屋大閣秀吉公御入し之宅

此邊こつしき多し、其中ニすりたくさんまじり、ゆたんすべからず

大坂材木町大和屋弥三郎泊り

はたこ銀三匁にて泊り、是はむた也、

二匁位にてとまるへし

御城 玉石かき也、申も中々  
おろか二日本第一といふ

高らい橋三丁目とらや□すなばそ

ば、あんばいよし

四つはしのきせる、江戸ニはおとる、

買べからず

大坂見物所たんと有

人形芝居見物ス

二月廿六日 着

二月廿七日 芝居見物

二月廿八日 見物

二月廿九日 出立ス

四天王寺 佛法宝物

御寺二寺領千六百石

七堂からん也

五重堂誠二高し

拾六文にて登る

鳥居之額は小野道風之筆

釈迦如來

傳法給所

當極樂土

東門中心

天王寺村二日本隨一庚申、社前ニ申

式疋、御本社之内ニくゝりさる幾

千万といふ、不知其數、大坂より藤

井寺三り

西國五番札

河内國藤井寺

本堂 南向五間四面

真言宗 寺領五石

藤井寺より上太子え壺り半

誉田八幡社

諸社多し

道明寺天神

壺井八幡宮

義家公奥州せめの時、かんはつにて

味方なんき、弓にて岩をつかせ給ふ

ニ清水万水ス、今ニ清水之井也

山上ニ

頼義公  
義家公

はか有

上太子よりたへまえ一り八丁

木屋甚兵衛泊り

二月朔日<sup>(三十七)</sup>

聖徳大師之御廟所

あみた堂、諸堂たんと、奥院聖徳太

子御夫婦御母様之塚有、太子廿七才

之時弘法大師百日ニ百度御出被遊

百日目ニ御對面大師尊之給ふ、又弘

法大師ほんしを切付し石あり、岩屋

之中ニ座敷あり、其上ニ日本六十六

ヶ國より集給ふといふ、是を廻れば

則日本を廻る同前なりと、又ほんじ

を拜して極樂参りといふ

當麻寺 中將姫之まんだら開帳、も

のたんとあり

中將姫御剃髮所紫雲庵と号ス

諸堂たんと有

中將姫之うたニ

中々ニ山之奥こそすみよけれ草木

二人のつみをいわねバ

新庄より御所え壱り

右之方ニ金剛山千早城

楠正成城跡

御所よりトサ一り半

ちくら村役行者御誕生之寺あり

土佐よりつほ坂へ半り

御城山之上之高き所ニ見ゆる

植村出羽守式万五千石

西國六番札

大和國壺坂寺 本堂瓦也

向八間四面 寺領百石

つほ坂よりひそえ一り半

ひそよりむたえ壱り

吉の川船ちん六文

むたよりよしのえ五拾丁

是よりさくら木たんと

是ハこれほとはかり花のよしの山

花さかり山は日頃の朝ほらけ

唐銅の鳥居より兩かわとまりや

吉野宿たつみや長衛門

三月朔日 晴天

吉野山金峯山寺

寺領千石

寺百軒余有

本尊藏王權現、本堂大間十八間四面

柱七十式本、此内二つうじ柱本一

丈三尺廻り

しつか御前ほうらくの舞跡あり

宮城寺

後醍醐、後村上  
二帝此寺ニ皇居

吉光院(水)ト申ニ宝物有、何人ニても

百文ニ開帳ス、源よしつね御座之間、

弁慶しあんの間、是は古物なる座敷

二相見へ申候

宝物其数多し

吉野より上市え壱り

よしの川渡し五文

いも山(イモ)せ山見ゆる

上市より瀧はたえ一り半

此間ちまた越といふ坂有

瀧のはたよりたうの峯え一り半

たふみね宿松屋古衛門

(多武峰妙楽寺)

多武峯大職官鎌足公

御廟所御普請けつこふ

くわいらう、拜殿、唐木拜見ス、

十三重塔、諸堂多し

社領三千石

きてみれハこゝもさくらのやま

つゞきよしのはつせの花の中やと

たうのみねより岡寺え五十丁下り坂

西國七番札

大和國岡寺龍蓋寺

真言宗、寺領廿石、本堂南向五間四

面

橘寺は正徳太子建立

むかし此寺二井三つ有、今日春日井

沓つ残り、此井水呑は女人難産なし

といハる

岡寺より八丁程

飛鳥明神 末社多し

阿部え壱り、あべよりさくらめえ半

り、桜井より追分へはんみち

追分より長谷え壱り

長谷寺え行、又追分え帰ル故此追分

え荷物頼ミ長谷寺え參詣すべし

此所二も三條小鍛冶有、又ならにも

三條鍛冶有

追分二めうとまんちう名物

長谷二よきやとたんと有

宿こめや又三郎

入口大鳥居額は小野道風筆也

西國八番札

大和國長谷寺 寺領三百石

真言宗 二王門入と長廊下九十九間、

石段也、本堂大間七間四面かけ造り

御普請、筆二尽かたし景地也、諸堂

たんと有

追分丸屋利兵衛泊り

三月二日

おいわけよりみわえ壱り

三輪大明神 社領百七十石

本社なし、拜殿計

みわそふめん名物よき

茶屋有、左たつ道

三輪より丹波市え式り

此間龍田川

百人一首二龍田の川の錦なりけ

り、此邊り

立田大明神

丹波市より法隆寺え三り

法隆寺 本尊薬師如来 寺領千石

廿四文酒手遣也

大からん御普請よし、本堂とひらを

猿沢池 采女宮

まわすとおんかく之音いたす也

衣かけ柳 五重塔

七堂からん正徳太子の御建立

春日四社明神

法隆寺より小泉え壱り

社領六千七百十五石

小泉より郡山え壱り

石燈籠幾千万其数しらす

郡山より西京薬師寺八丁

金燈籠は諸大名よりきしん

松平甲斐守殿御城下

春日社 三笠山

十五万二千八百八十八石 よき町也

若草山 手向山

此邊わたのたんと出る所也

春日山 八幡宮

正大寺 大からん也 十丁

東大寺 寺領貳千貳百石

天神え十丁

若狭井 毎年二月朔日  
十四日祭り

西大寺 大からん

其節は水若狭よりさすと也  
常八千井也

ならへ壱り

四月堂般若寺

ならハ宿引のむつかしき所也、なん

高サ十五丈六尺

といふ共手帳ニ有とはかりいふへし

大仏殿 東西三十三間  
南北貳十八間

柱七十六本

大 仏 御丈五丈三尺五寸  
御顔永サ壹丈六尺  
同廣サ九尺五寸

廻 廊 東西九拾間  
南北百間

鐘 高サ壹丈三尺六寸  
口渡し九尺壹寸三分  
厚サ九寸三分

此かね本告ヲ朝比奈三郎□ス

奈良鹿たんと

西國九番札

奈良興福寺南圓堂

寺中百軒余、御堂南向

八角堂、正九つ時分見物

■大和 國境  
山城

木津より平尾え一り  
木津川渡し八文

平尾より玉水え一り半

玉水より永池え一り半

永池より宇治え式り十三丁

ナガイ 永池さゝまつや泊り

三月三日 晴天

南都見物、案内壺人頼か八十文、外

三月四日

宇治平等院 此寺ニ頼政宝物有、駒

つなき松

扇之芝居頼政腹切之所

橋姫宮 住よし社

宇治橋八十八間

宇治川流青々として矢より早し、近

江水海より落し、むかし佐々木四郎

高綱と大音聲上げしも此水せひを乗

りきる事誠之勇士、名を未代迄の手

本とかや

宇治橋之本ニ通圓とのふれんかけ御

公儀之御茶師有

西國拾番札

宇治郡妙星山三室戸寺

天臺宗 堂南向八間四面

三室戸より六地藏一り

黄檗山万福寺

開山隱元禪師 三十軒余寺中、寺領

四百石

御普請誠きれて大からん也

六地藏より下たいこへ一り

下醍醐より上たいこへ一り

三寶院宮様

登り坂也、左ニ女人堂

西國拾一番札

山城國上醍醐寺 本堂南向九間四

面、寺七十軒余

女人きんせい也

■山城  
近江國境

上だいこより岩間寺え七十丁

西國拾式番札

近江國岩間山正御寺(巻)

寺領三十五石 堂南向三間二六間也

岩間寺よりいし山え五十丁

西國拾三番札

近江國石光山石山寺 真言

堂南向八間二四面

紫式部源氏物語書し旧跡

近江八景之内石山の萩

川岸ニよぎとまりやたんと

八幡屋よきやと

此石山より長命寺え船ニ乗ルへから

す、沓り之そんくれしニ乗事無用

石山より瀬田え十丁

瀬田橋中ニ小しま有、大九拾六間小

廿式間也

此せたの永橋、秀里むかてをいとめ

しとかや

瀬田より草津え一り廿六丁

草津より守山え一り半

ふじや与衛門泊り

此ふじや大きニよし、膳部引落し付

酒肴出ル、弁當付

式百文ニ泊まる、余り大そふニなる

故外ニ茶代置申候

三月五日

守山よりかゝみえ二り

かゝみよりむさえ一り半

むきより廿丁程行、左え別レ十五丁  
登り、きくや村

西國三拾貳番札

近江國キヌカサノ織山本堂南向五間四面、此御  
山十式丁登り高き所也、此所かけぬ  
け道有、佐々木四郎城跡、本堂より  
三町程行、夫よりかけぬけ道ちかし、  
此御山かけぬけ道より風景よし

惣見寺 信長公寺也

くわんおん寺より長命寺え式り

豊村といふ有

八幡八幡社

西國三拾一番札

近江國長命寺 八丁登り

石段七百三十一段登り

寺領百石、堂南向七間二四間也、長

命寺ふもと

藤屋平吉二泊り

三月六日 天氣

長命寺より大津迄船ニ乗りてよし、  
壹艘立切三朱文

十式三人乗り船にて近江八景ヲ見ル

平野雪 堅ツカ田落雁

粟津 御城本田隠岐守六万石

瀬田 唐崎松

矢橋より大津え渡し船有、一り

長命寺より船ニのらぬ時は矢橋より

大津え渡るべし、矢橋の帰帆是也

田原藤太秀里たひじのむかて山みゆ



此様な高い山也

大津え順風にて正九つ着船

西國拾四番札

近江國三井寺 寺領五百石

真言宗 寺中廿式ヶ寺

本堂東向拾間四面 八景一見二見下落

し

奥院女人きんせひ、龍宮より上りつ

りかね弁慶ゑひ山え持參スとかや、  
岩つふれて有、三井寺こひしやとな  
る故弁慶はら立、なけしとかや、こ  
われしを作り立し様子也

三つ井有 ゆゑ二三井寺といふ

志賀唐崎一ツ松

茶屋多し

大津より坂本え五拾丁

坂本三王禁泊りわかさ屋源治

三月七日 くもり

坂本にて案内壺人、百六十四文にて

ゑひ山迄案内ス、是は山王參詣迄頼

へし、ゑひ山は案内なく共わかる也

坂本山王權現 七社也

東照宮社

石橋七間ヲ三尺幅の石三枚にてかけ

る、夫より廿六丁登り茶屋有、水海

見落し、扇の形ニ山の合より見ゆる

唐崎之松は扇の要にてこきゆく船

は墨繪なりけり

ゑひ山石段三十九登りて大門也

東堂 中堂薬師也

講堂大日也 戒壇堂釈迦如來

傳教大師御廟所

西塔 釈迦堂

弁慶之出候所

惣輪橙 元黒谷

坊中百式十七軒 御朱印五千石

八瀬村え下り五十丁急也

ゑひ山よりくらまえ三り

八瀬と小原といへる式ヶ村有、京都裏<sup>レ</sup>禁様之御幸之時、御こしをかく

人足之出る故二惣かみ也、女のおよ

二髪長ク、女房娘は京都え木を手掛

四角二ふさをさけ、もよふぬひ二い

たす、三尺帯紺と白の大名筋也、白

のきやはん前二てあわす、十五<sup>ノ</sup>目

より廿<sup>ノ</sup>目あたたま二のせて賣二出る

八瀬よりくらまへ百丁

松尾山鞍馬寺より京え三り

本堂 毘沙門天

二重塔 東光坊跡

薬師堂 多宝塔

観音堂 くるま坂

おとし坂 僧正ヶ谷

此僧正谷は牛若丸劍術手練之所也、

岩石二ことごとく大刀疵有

大僧正御影

牛若丸七才繪

ゑんの行者狩野繪

義經鏡兜岩切丸四尺八寸

弁慶太刀五尺式寸

鞍馬より貴船社え半り

木船大明神 京え式りはん

御公儀御ふしん、廿一年目二立かい

也

市原村小町寺有

小町少將書塚え宝物有

上加茂社、下加茂社

上下加も御ふしん御公儀、末社多し、

筆紙二尽しかたし、御社内廣し、上

加もより下かもえ半り、木船、上加

茂、下かも三ヶ所一日二末社迄御立

替也、此日七ツ時より雨ふり、合羽

を着し、みやこをさしていそく

京都三条通り柳馬場六角下也

扇屋正七え着ス

明レハ

三月八日 晴天

禁中様御殿拜し、紫震殿清涼殿見付

之如クなる御門入と関白様仙洞御所

様禁中様、夫より白川大納言様二て

三拾六銅上ルと家内安全御札年豆の

下り、かわらけ御酒頂戴ス

西國拾九番札

京革堂行願寺 天台宗

寺領廿石 本堂南向五間二四間也

西國拾八番札

六角堂（頂）順法寺 天台宗

本堂 南向六角造り也

六角堂前二日本真中之へそ石有

西國拾五番札

今熊野觀音寺 真言宗

堂 南向七間二四間也、夫より三丁

程行

千佑院と言太子様御菩提所、四宗け

んかくあり

東福寺 五山ノ内也

西國拾六番札

音羽山清水寺 真言宗

坂上田村麿建立 堂南向拾七間四方

かけ造り

音羽瀧見落ス、清水寺風景よし、江

戸淺草寺之如し、清水下り坂、かけ

ものみせたと、此所にて掛物買べ

し、よくよくねぎるべし

西國十七番札

普門院六波羅密寺 真言宗  
寺領七十石

本堂 南向七間四面也、此所島山治

郎重忠あこやことせめ之古旧也、六

はらの松かけてものひそやかに私を

せめてとあこやかいゝしも、此所か

四条河原大芝居、祇園社門前遊女町

多し

花頂山知恩院

淨土宗本山 大寺也、廿八間二廿四

間也、知恩院之軒ニからかささして

ある也、其訳はふしんニ間違なし、

依てかさをさすといふ

新黒谷四社明神

こゝニ熊谷之石塔有、瓜生石といふ

石有、是日本うりの初りといふ石よ

りつる出て瓜なりはしめるといふ、

さあれハ瓜をかたきものなるへきか、

かた石より生じてやわらかきをよし

とす、此日くれニ成、扇屋え戻ル

三月九日 晴天

平等院 宮様尼寺也

二条御城諸司代御屋敷

紫野大徳寺

明智光秀門 利休門

一休和尚廟所、一休和尚さいごの

時弟子形見ニなんそと頼、一休紙筆

といふ、則弟子持參ス

一休書ス

しにともないと書

弟子共是てわといふ

一休又書ス

うそてわないと書

今宮大明神

金閣寺拜見 弍百文也

是は金閣寺行ニ不及、夫程之事もな

し

小松明神

小松内大臣重盛公ノ誕生也

平野社 祭神

日本武尊 源氏祖神

仲哀天皇 仁徳天皇

天照大神 天穗日命

北野天満社

清涼殿造り、拜殿之きんほふし二ほりつけて有

内大臣秀頼公

普請奉行片桐市正

東寺 弘法大師こん立也

諸堂多し、御朱印式千三十石

五重塔

こゝの珍しきは東寺之前二丹波又衛

門と言百姓有、とふら之穴(マヤ)より東寺

五重ノ塔、御門、へい、松通り之人

迄さかさま二成、かけ二ハナル也

西本願寺拜見

太閤秀吉公之御普請之御屋敷、よい

之間、鶴之間、扇之間、かんの間い

つれも極さいしき画、こふてん上金

之かなもの、廊下之上も金のかなも

の、極さいしきいづれも狩野画、座

敷廿五畳より三十畳、御對面所百畳

余と相見へ申候、中々筆紙二尽しか

たし、飛雲閣御庭之有様筆紙二不

及、太閤秀吉公御風呂場、清正てふ

せんより持參之たか袖之手水石、額

は朝鮮大王之筆、其額ニ客禄亭とあ

る、飛雲閣床板天竺傳來蛇木、木は

た鱗形今二有、床ふちこくたん、床

はへた金ニ、其上ニ金ふんにて富士

山狩野筆、すわりて拜見ス、立と見

へず、太閤秀吉公すわりて見る、い

たつらニ松四五本太閤之書しとかや

後藤ほり御座敷有さま中々申も愚

也、尚筆紙尽しかたし

三拾三間堂

是は式間にて三十三也、佛数三万三

千三百三十三躰と言も尤も也

大佛殿失焼也 かり殿也

加藤清正鱗戦所、小雨行長み、持

參塚也

五条橋よしつね千人切

大佛殿之つりかねは秀頼公こん立也

東本願寺

堂四拾五間、高サ軒端八間飛る

けやき造り日本第一之堂といふ、此

度御普請ニ材木不足ニして朝鮮より

來ルとかや

京都買物はよくよくねきるへし、こ

とばハやわらかニして心もちふとい

所ニよくよく心得べし、きぬもの買

へからず、名所古旧多し、あらまし

を記す

三月七日着、七日より十一日出立、

京都より前原迄荷物廻ス、壹貫目ニ

付百四文、正七より引替之一札受取、

前原磯邊九兵衛方一札渡し、荷物う

け取可申事

嵯峨釈迦 日本第一尊

門前ニ茶屋とまりや有

小倉山ニ尊院

しんらん上人 依てニ尊也

圓弘大師

愛宕山え五拾丁登り、五十丁登りニ

茶屋有

橋之きわ升屋定七泊り

(三月十二日カ)

あたこ山焼失ニ付かり殿

あたこより龜山え式り半

船渡し三文

龜山御城

松平紀伊守 五万石

あなうえ 式拾丁

道折

西國式拾壹番札

丹波國穴穂太寺 天台宗

堂南向八間四面也

右穴穂寺よりとのはたえ三り半、山道ニして泊屋あしニ用心之事

あなう寺よりとのはたえ三り半

此間ニさふや村え泊り

三月十三日 雨天滞留ス

(三月十四日カ)

とのはたよりよしみね卅丁

◇丹波國境  
山城國境

西國式拾番札

よしみね寺 天台宗 寺領式百石

堂 南向五間ニ七間

善峯より八幡え式り半

小塩村ニ光明寺、大寺也

在原業平塚、熊谷連生坊塚

狐川渡し拾六文、左りニ淀見へる、

是は濱川と也、八幡御門前茶や宿屋

有

放生川

御橋、石鳥居、御門、廻廊、あみた堂、御旅所

夫より石段四十程登り

二重塔 廻廊

御本社 正八幡宮 社領千八百石

大木楠 四十末社

此御山より目釘竹名物也

十八丁下りて橋本宿屋たんとよき、

淀川渡し十六文也、はしもとよりそ

うし寺え式り半

西國式拾式番札

攝津國補陀洛山惣持寺

天台宗 堂南向六間ニ四間

そうし寺より郡山え壱り

郡山より勝尾寺え壱り半

西國式拾三番札

攝津國應頂山勝尾寺

堂南向七間四面

下り坂急也、瀧あり、高サ拾丈余落

ル、下ニ不動尊社有

勝尾寺よりみの尾え五十丁

箕尾より池田え五拾丁

池田より中山え五拾丁

此池田造り酒屋たんと酒味ふ、色う

すくして呑きつし、思ひの外高直也、

伊丹左り二見いる、是も造り酒屋也、

伊丹より西宮迄濱通り五里之間をな

たと言造り酒屋たんと有、池田、伊

丹、なだ迎江戸積出し酒たんと

西國式拾四番札

攝津國中山寺 真言宗

堂 南向五間二七間也

諸堂多し

門前二茶屋多し、此日中山寺二泊ル

此柳屋よきやと也、湯二入節湯衣等

出也、膳部よし

(三月十五日)

中山より西宮え三り

西宮よりうばらへ式り半

御本社三社也

西宮太神宮蛭子社

御山内廣し

打手村 あしや村

猿丸大夫塚、芦屋道満塚

うばらより上野え壱り半

住吉大社 さゝれ石有

君か代八千代二八千代をさゝれ石

の岩ほとなりてこけのむすまで

上野よりまや山え拾八丁

右まや山のふもとに茶や四五軒有、

是にて荷物を置へし、布引瀧へ是ヒ

戻ルと言なれ共、まや山中段より布

引瀧行道有、此所え荷物置事なかれ、

まや山え拾八丁登り、大石段式百五

拾段上ル、高キ山也、大坂、住吉、

風景よし

(摩耶山天上寺)

本堂 十一面觀音也

まや婦人堂

詠歌

山の名を仏の母と聞時ハこれそ誠

の慈悲のみなかけ

布引瀧 男瀧二段おつる

二丁程下りて女瀧直ニ落

夫より下りて熊打村、此所水車家業

沢山也

生田森明神

梶原井、さくら馬場

神功后宮釣竿竹

ゑひら梅二一二厘梅ヶ梶原咲かけ

てよほと春日も延て候

此生田森は源よしつね公一ノ谷ひよ

とりこひに軍勢引給ひて御本陣を居

給ふとかや

地面廣ク古戰場なりとかや、此生田

森合戦之節梶原源太景季ほまれを殘

夫よりかうべ町へ出る

此かうべよき町也

田ノ中ニ楠正成石塔



嗚呼忠臣楠子墓

水戸城主光國公御筆

此碑より三町程西ニ寺有

廣嚴寺ニ

楠正成旧跡

楠正成木像同甲冑

同守本尊ひしやもん天

正行え送り状正成自筆

水戸黄門光國公より石碑之御添状

楠公御所持鉄扇

同しけとらの弓

同軍配團扇壺本

楠公より正行え送り状有増

今度隼人遣候事余之義あらず、我等

さいこ近しと覚候、願は貴殿見届ケ

度候得共、義之重處更ニ難逸候、弥

勤学無怠、成長之後我等心中可察候、

伊上

兵衛正成

正月廿一日

楠庄五郎殿え

猶々君より拜領之卷絹一軸具足やう

着在らへとも先祖より持傳永御身ニ

送り湊川今ハテつ也

兵庫より須磨寺ニ壱り

兵庫しほ屋泊り

三月十七日(三月十六日欠)

兵庫來光寺

松王丸身替り古旧

此兵庫大相國清盛公筑地也、海え石

にて再々出しよき船つき也、筑地ふ

しん之節人柱三十人之替り松王丸一

人人柱ニ成、今ニ寺ヲ立テ有、入船

出船沢山にてはん昌之地也

兵庫出口寺ニ

平相國清盛公石塔

但し十三重石塔也

此墓ヲひくに寺え、兵庫より須磨寺

え壱り、須磨入口左り方二つくしよ

り流着給ふ

網敷天神社

上野山須磨寺

神宮后宮三漢戦之節御病氣にて、此

所千草花御集被成候跡、今ニ千坪有、

須磨寺馬場先ニ三位中將重平被生捕

松、左ニ須磨関、寺之跡、右稲葉山

見ゆる

山之上ニ熊谷次郎あつもり呼返し之

松、須磨寺門入ヲ若木桜、此桜ハ木

ふるくなるとかれて元より若木生ス

弁慶高札

一枝折は一指可伐、弁慶花の高札是

也

サツマノ守タノノリ

行暮て木の下かけを宿とせば花や  
今宵のあるじなるらん  
鐘義經公軍中用ゆ、軍終りて源よし  
つね公此寺え出さむとかや

須磨寺宝物左二

青葉笛 唐竹笛

義經寄附状 弁慶花の高札

あつ盛鎧 赤はた

安徳天皇内裏跡

義經勢揃松

熊ヶ谷扇之松

一ノ谷 ひよどり越

てつかひヶ峯

二ノ谷 敦盛さいこの松

三ノ谷◇攝津 國境

此三ノ谷敦盛公討死之所

五輪之石塔有

此所茶屋四五軒有

うんとん、そば名物

よひかけるこい高し、右茶屋客を呼

事高聲ニして手を不引口て計呼込、  
客をとる事いくさの如し、引手の男  
源平と別れて客ヲとらんとあらそふ  
口上也

塩梅は、よしつねもりはてつかいか  
みねいくらもくろふ、判官茶はさつ

まの守たゝのみ、うとん玉織姫ニし

て色白し、そばハ弁慶ニしてくろし、

直段あつもり公之御とし十六なりと

いふ、其外いろいろのしやれ事りや

くす

此邊濱邊道前はあわじ島手にとるよ

ふ二見へる

たるみよりあかしえ式り

出口二仲哀天皇屋敷跡、此山千臺山

と言

舞子之濱

明石より大久保へ壱り半

松平左兵衛佐 六万石

人丸大明神

ほのほのとあかしかうらの朝きり  
二島かくれ行船出しそおもふ  
盲杖稼  
筑紫盲人一七日心願にて籠ル夜

ほのほのと誠あかしうらならハ我

二も見せよ人丸之塚

右心願叶ひて目開き、杖ヲさして帰

るとなん、その杖木さくらにて、今

枝葉出て花咲とかや

大久保より野口へ式り半

別符住吉松

すみよし之松

東西十八間

南北十三間

高サ五間半

枝葉五形無数

われ見ても久しくなりぬ住よしの

きしの姫松いくよへぬらん

住よしの松にて夷講ヲいわひて

ゑ たゝれて  
ひ さしくなりぬ

す みよしの

か わらぬ御世そ

う れしかるらん

鶴林寺 寺領百廿石

聖徳太子開基、七堂からん、本尊葉

師如來

寺八軒、大門ヲ出テ尾上之まつえ

尾上より高砂え半道

尾上松 三代目 相生之まつ、男松木え女松

之葉生ス

高砂之浦牛頭天王社

高砂船宿つりや伊七郎

三月十七日着

船直段之義、安藝宮しまえ行ゆくも

丸龜迄片船ときめへし、其わけハ宮

しま廻り金式分ニ定也、丸龜迄五匁

也、丸龜ニて宮しま廻り廿匁くらい、

よくよく直きるへし、船頭之手ニ皆

入ゆひあり共行也、金ひら計て戻ル

なれハ上下九匁也

三月十七日夜四ツ時

末吉丸と言船出帆ス

つりやニて

百文 片はたこ、湯二入

百文 布段損料

九匁 上下船ちん拂

船中用心品々

はな紙 梅ほし

たばこ なんそ葉

明レは

三月十八日 四ツ時

西風ニ成、無抛室津えかけ船

十九日 大西風、これも右同段成

風景よし

室津か茂七社明神

風景よし

遊女屋式軒有、けいしや式匁

ときわやといふ茶やニて、けいじや

式匁、酒肴三匁、七人ニてしやれる

三月廿日 朝室津出船

其夜も船ニとまる、廿一日五ツ時丸

龜え上り、丸龜宿あみ屋

御城 京極能登守 五万千五百石

此宿ニて仕度致し、さんけいニ出か

ける、丸龜よりイや谷え式り半

弥谷寺、弘法大師がくもん之寺也

いや谷より善通寺え七十丁

善通寺 屏風浦連弘法大師御

とまり屋、茶屋たんと

善通寺より金毘羅え壺り半

金毘羅山桮岡本屋泊り

三月廿三日 (三)

象頭山金毘羅大權現

二王門 二重堂

石鳥居 唐金鳥居

鐘 楼 石玉かき

石段上り 御本社

金銀之御へいそく

三拾番神

繪馬堂

あわし國より納メしいかり

其わけハ大船江戸へ行金を遣り、船

頭をいかりニゆわひつけ、水主共惡

心ニして海中えなけしニ船頭命助

り、上りを納メしとかや

金堂其外諸堂多し

石燈籠金燈籠其数不知、少し下りて

別當御札守ヲ請取、御札守廻紙箱等

町ニて賣ル

町宿屋、女郎屋たんと

夫より丸龜迄百五十丁、壹丁ハ廿

七八間位、さすれハ金ひらより丸龜

え本道七拾町くらい也

丸龜宿ニて茶つけヲベル

丁百五拾文役せん共

跡は惡風ニて幾日いるとも船よりま

かない出る、百五十文之外せにいらぬ也

三月廿二日 丸龜ヲ出船、其夜きや

うのしよるといふ島ニかけ船

三月廿三日 西風ニて八ツ時室津え

着船、室津ニて海上安全ニ祝酒ヲ吞

室津より正条え忒り

しやうしやうよりいかるえ忒り

正条宿元間屋伊衛門泊り

船渡し六文

三月廿四日 晴天

いかるより坂本へ一り半

坂本より書写山へ十八丁登り

御山之碁ニ西坂本、東坂本連あるな

れ共一ヶ村同様成

西坂本より登り東坂本え下り、若此

邊とまりニなる時ハ東坂本かよし、

東坂本より登りても二町程の廻りな

り、西坂本はやと屋百姓家ニてあし、

西坂本より引手出テいるなれ共かな

らずも引れへからず、東坂本二はよ

きやと屋たんとあり

東坂本宿いつミや武衛門

西國貳拾七番札

播磨國書写山圓教寺

天臺宗 寺中六拾ヶ寺

寺領八百卅石

堂南向四面、前石のそり橋有、是を

まはしと言

釈迦堂 文珠堂

あみた堂 女人きんせい

奥院 性空上人御堂

書写山より姫路え一り半

姫路御城天子有、酒井うたさま姫路

をとりやる 拾五万石也

此所皮類名物

立花屋庄八郎かけねなし

此姫路にて皮類買時目利かあらハ何軒も見てよくねきるへし、立花屋庄八郎はかけねなしゆひ高直ニあらず下直あらず

姫路よりそねまつえ式り半  
曾根天神社

同松 御朱印三十石  
御門額は天満宮と有

曼珠院宮良尚二品法 親王御筆

そねより石宝殿え半り  
石宝殿 高御位大明神  
生石子大明神

石寶殿 三間ニ四間大石也  
上ニ松四五本有

前なる茶屋ニ泊り

三月廿五日

石宝殿より法花寺え三り

西國式拾六番札

播磨國法花山一乗寺

天臺宗 寺中三拾六軒

寺領百式十石 堂南向九間四面

法花寺よりはんしやうえ式り  
はんしやうよりのむら五十丁

船渡し三文

野村よりさをのやしろへ半り

佐保大明神 末社多し

惣のやしろよりむませえ式り

馬瀬よりかも川へ壱り半

かも川よりきよみつえ三十丁

かも川宿角屋源衛門泊り

三月廿六日

御山十八丁登り

西國式拾五番札

播磨國御岳山清水寺

天臺宗 本堂九間四面

寺領六十石 寺中拾八軒

薬師堂 あみた堂

多宝堂 田むら堂

奥院十一面くわん音

鎮座三社

◇ せつ津 播摩  
丹波 くに境

清水より市原え三十七町、下り坂

市原よりおいれえ三り

おいれより國領え五十丁

龜わり坂上り八丁、下り三十丁也

こくりやうより福ちえ四り半

此日九ツ半時より大あめにてこくり

やうにとまる

三月廿七日

左ニ大江山見える、大森村源頼光大

江山鬼神退治之節勢揃所、右ニ高山

見ル

福智山よりかうもり三り

朽木出羽守 三万五千石

◇ 丹波  
丹後 國境

福智山よりかうもり迄下り、川船乗

ル、壱人五拾四文ツ、乗り合たん

となれハ三十五文

船より上りて宿有、夫より十八丁行

大神宮外宮 四十末社

宇治橋からかねのきぼうし

外宮より内宮半道

天照皇太神宮 八十末社

天の岩戸谷えけハしく下りて、大神

宮御誕生被遊し所なり、見物いたす  
へし

内宮より宮津え四り

此間こもとまりや有

宮津より成合え壱り半

切戸え半道

三月廿八日 泊り

御城 松平伊豫守 七万石

宮津よりなり合山ふもと迄壱り半、

船二乗ル、上下にて三拾貳文、天橋

立日本三景とかや、横壱町くらい、

永サ壱り余、並松海中ニ有、成相山

より見落ス事も中々愚也

拾八町登りて

西國貳拾八番札

丹後國せ野山成合山寺

真言宗 寺六ヶ寺 寺領三十六石

堂南向五間ニ四間

下山致し、右船ニ相乗りてきれとの

もんしゆえ參詣

天橋山智園寺ヲン

日本随一之文殊尊といふ

諸堂多し

龍宮より上りし海老之わに口

同 たこのかうろ

夫より龍焼松、かた枝まツ、見上石、

にわ鳥塚

宮津成合山え陸路ならハきれ戸より

船渡し六文ツ、宮津より立船にて

のらいでも渡し錢六文取られ申

右宮津より松尾寺ふもと内海拾壱

り、日よりよくハ一人り百文くらい  
にて船二乗りてもよし

宮津よりくんたへ一り

此邊ちり面名物

くん田よりゆらへ式り

七まかり八丈峠

三庄太夫清ばい之松

三庄太夫屋敷跡

封至丸安寿姫古旧

ゆらより中山へ一り半

左り方川中ニ三庄太夫源之屋敷跡、

船渡し四文

中山より田なべ一り半

宿屋あり、峠貳つ有

田邊より市場へ式り半

牧野豊前守三万五千石

田なべ新町中村屋吉兵衛泊り

はこ屋ともいふ、よぎやとなり

三月廿九日

市場へ松尾へ二り

拾丁程御山登りて茶屋、やとや有、

石段を登りて

西國廿九番札

丹後國青葉山松尾寺

真言宗 寺領式十一石 寺中五ヶ寺

堂 南向五間二四間

松尾より高濱へ二り

◇丹後若狭くに境

高濱より本郷へ二り

本郷よりおはまへ三り

此間二坂式つ有

小濱入口二八百姫宮

開帳、御丈壱尺五寸座像、十八才之

御姿、右之御手ニ宝生玉、左り御手

ニ花持給ふ

小濱よりおにうへ一り

御城 酒井修理太夫 十二万三千石

小濱宿ひわ屋喜太夫

三月晦日

おにうよりひかさへ一り

ひかさより熊川へ式り半

熊川よりほう坂へ一り半

宿もめんや左喜郎

此町出ぬけニ御番所

女子國郡御改

◇若狭くに境

方坂より今津へ三り

今津、竹生しま三り

今津宿木綿屋清兵衛泊り

今津、竹生島へ湖水三り

竹生島より長濱迄湖水四り

都合七り、船ちん七拾五文

船頭御酒手といふ、十式文遣也

四月朔日

今津より出船竹生島へ

風なくてろをおす、船中乗り合八拾

人程、御詠歌を上ルも有、國々の咄

しも有、こんざい也

西國三拾番札

近江國竹生しま宝嚴寺

寺領三百石 天台宗

堂南向五間二四間 寺中拾軒

奥院 弁才天

式寸程之内ニ拾三佛尊像

壹寸程之内六字名号

四方 三尊之みた

二又竹 兩枝ニ此竹生せし故竹生島

と名付と

竹生島右之船ニ乗りて長濱へ着ス

長濱より前原へ二り

彦根御城左ニ見え

前原より番場え廿八丁

此米原磯邊九兵衛殿方にて、京より

廻し荷物手形引替うけ取、藏敷壱人

前にて十文ツ、

前原宿泊り

四月二日 あめふり

たが明神へ式り半

番場よりさめかいへ三十丁

伊吹山見へる

六波羅之一そく石塔有

醒ヶ井より柏原え一り半

さめかい宿錢屋仁左衛門

此町中を流る、川なり

日本武尊、伊吹山にて來蟒之氣ニ當

り給ふゆへ石ニこしかけ、此川ニ御

足をひやし給ふ、ねつきをさまし、

則今の地名醒ヶ井といふとかや

柏原よりいますへ壱り

宿万年屋長兵衛

此柏原、伊吹もくさ名物

◇近江に境 ねもの

美濃 かたり

今須より関ヶ原一り 定やと柏屋弥衛門

左りニ常盤御前石塔并ニめのとの石

塔

不破之関守車返し坂と申ハ、むかし

普光院と申奉る御方、不破の関の月

を御らんせられんとてはるばる都よ

り下らせ給ふ、関守此事聞及、かく

あれたるていにてハ見苦しとてやね

をふぎ、こゝかしことりつくろい待

請奉る、此よし坂之上にて聞し召れ、

おしいかな関守あれたる所こそ賞翫

なれ、歎し給ひて一首之御歌ニ

ふきかへて月こそもれぬ板ひさし

とわす之あらや不破の関もり

と言遊て此坂より御車を引返し都へ

かへらせ給ふ

関ヶ原たるいへ壱り半

宿柏原彦左衛門

此所関御陣場とかや

たるいより赤坂へ壱り十式丁

◇右 中仙道美濃路

左り木曾善光寺谷汲

右たる井宿之中ニ大鳥居

南宮社 右鳥居額ニ正一位金山彦大

明神と書、是則美濃國一社は也

熊坂長はん物見まつ

照手姫くミし清水

万屋長か家敷跡

悪源太義平公

左馬頭義朝公石塔

太夫 近 朝長公三つ有

右御はかのそはニ

よしつね公のよし竹

さし置も片身となれやすへの世に

源氏栄ひてよし竹となれ

此所姫まんちう名物 三文

あか坂より白石へ三り

赤坂やと笹屋藤八泊り

四月三日 あめふり

あか坂より式り半行、杉野村左衛門

殿と言ニ泊り、此所ニ川有、大雨川

留二候

留二候

四月四日 雨天

白石より谷汲へ式り

谷汲門前二とまり屋、茶やたんと有

西國三十三番札

美濃國谷汲山 天台宗

本尊十一面觀世音 御丈七尺五寸、

文珠之御作、此御仏よなよな地獄へ

通ひ給ふ、故ニ御衣ぬれますす之

の事

順禮之者本堂へ上りて御尊を三べん

廻りて前へ座し、方丈ゑこう有、御

十念ヲ膝へおゆつりぬきて御本尊の

前二坐、御詠歌上ル

今迄ハおやとたのみしおゆつるを

ぬきて納ルみ之の谷汲

難有サのまゝいと、涙そ袖しほる

御本尊之涙ニこけの水地藏尊拜ス

奥院上り

谷汲山對之石燈籠百八燈、其外数多

し  
谷汲よりかのふえ五り半

此日かのふえ出へき所、同行跡ニさ

かり候故赤坂迄戻り、赤坂笹屋藤八

二泊り

赤坂よりかのふえ五り、同行八人之

所五人は跡か先かわかりかねる、三

人ニて善光寺さしてゆく

四月五日 晴天

加納よりうぬまえ四り八丁

白つけ大根名物

うぬまより太田え式り

宿野口定衛

宿坂井半左衛門

岩谷觀世音

太田より伏見え式り

宿いそかいや新左衛門

四月六日

木曾川渡し

ふしみよりみたけえ壱り五丁

伏見宿岡田与惣衛門

みたけよりほそくてへ三り

宿茶屋十兵衛

ほそくてより大きくてへ壱り三十丁

宿笹屋清衛門

ひわ峠と言有

大きくてより大井へ三り半

宿米屋利衛門

此間二十三峠有

北二加賀白山見ル

西伊吹山、丑寅二木曾御たけ山

左り之道上ニ西行法師塚

大井より中津え式り半

宿大井宿いづゝや長衛門

四月七日 晴天

中津よりおち合え一り五丁

宿中津宿扇屋半藏

落合よりまこめへ一り五丁

宿いの口五左衛門  
浅のや兵藏

まこめよりつまこめへ忒り

宿はちや源衛門  
宿島田屋利衛門

◇美濃國境

つまこめよりみとのえ忒り半

宿叶屋清衛門  
宿たつの屋定藏

みとのより野尻え二り半

宿三文字や傳衛門  
宿ル木戸彦左衛門

四月八日

左二今井四郎兼平城跡

須原よりあけ松へ三り九丁

宿中村屋孫吉

扇原と言二瀧有、そは名物

ねさめ二そばの名物有、塩梅よし、

茶屋ちせんや

輪泉寺と言二浦島跡有て、ねざめ床

弁才天

此寺之庭より見落ス、浦島太郎玉手

箱あけし所

こしかけ石、うら島つりし給ふ所有、

まないた石、硯石、釜石、ひやうぶ

石、そふ石、其外いろいろの石有

向之山二浦島大明神廟所

ねさめの床二

谷川の音にハゆめも結ハしをねさ

めの床とたかなつくらん

屋顔二昼寝せよとか床の山

はせを

上ヶ松より福島え忒り半

宿白木屋五左衛門  
万屋 卯兵衛

木曾のかけはし二出月

棧や命をからむ葛かつら

むかしハ七拾五間之橋にて有しを今

ハ石にてたゝみ道二いたし、沓間計

の橋有、是かけ橋之名諸成

福島より宮ノ越忒り半

宿入屋仁衛門  
入屋徳兵衛

御関所、此所京江戸道のり同じ

みやのこしよりやふ原へ忒り

宿大丸屋

木曾義仲城跡

同碑有

やふ原よりならへえ忒り半

宿ふるはた又左衛門  
宿みなとや清十郎

此所木櫛之名物

鳥井峠上り三拾三丁、下り三十丁

四月九日

ならへよりにへ川え忒り半

宿野村又衛門

にゑ川より本山え忒り

宿柏屋吉衛門

落合よりにへ川迄廿一里之間木曾山

といふ

本山よりせはへ三十丁

宿白木屋左一衛門

せはより郷原へ忒り十忒丁

宿 米屋左次兵衛

志村甚之丞

◇ 右中仙道  
左善光寺

せばより塩尻え忒り 塩尻泊り

川本新十郎宿、夫より諏訪迄六り、

此塩尻より下諏訪え三り、下すわよ

り上諏訪え一り、上すわより諏訪明

神え忒り

四月十日 參詣

下諏訪鳥居唐銅也

諏訪大明神 御朱印五百石

御本社忒社

上諏訪一宮

諏訪大明神 御朱印千石

石鳥居、そり橋渡り大門、夫より廻

廊三十八間渡り、御本社、御神樂殿

そり橋前二出

茶屋有、上諏方御城三万五千石

諏方伊勢守

御城下よき町也

塩尻よりすわへ參詣、村井迄上下

十五里、正八つ時村井着ス

尤も下諏訪ニ湯治場也、湯之あんば

い岩城湯本之如し

郷原より村井え忒り十忒丁

宿山城屋太郎左衛門

村井より松本え忒り十忒丁

宿 泊り角屋清衛門  
中つたや清藏

四月十一日

右村井二正八時より泊り、跡五人を

待居候所、此所にて同行一同二相成

松本より岡田え忒り

宿 かつら屋伊兵衛

御城 松平丹波守 六万石

岡田よりかりや原え忒り

宿 大こくや嘉助

此大こくや嘉助方より上田迄荷物送

り、忒目付六拾四文つゝ

赤坂峠

かりや原よりあい田へ忒り十丁

此所やとわすれまして見たてなし

會田よりみたれ橋え三拾丁

宿 角屋伴七郎  
花屋孫七

たち峠十八まかり登ル

みたれ橋よりほつきやう卅丁

宿 大和屋武八

青柳より尾見え忒り十忒丁

宿 青木屋太兵衛  
問屋八郎衛門

尾見より中原え五丁

四月十二日

宿 花屋平衛門泊り

中原より桑原え三拾丁

田毎之月

桑原よりいなり山え忒り

宿 みそや三衛門  
みそや新衛門

稲荷山より追わけ忒り

宿 丸屋平左衛門  
宿 よねや勘衛門

此邊二三りの間川中島

追わけより丹波しまえ式り

宿 柳屋勘之丞  
宿 たる屋長衛門

此追わけへもどる二荷物等兩家之宿  
之内へ頼ミてよし

丹波島より善光寺え壱り十式丁

宿 小松屋与五郎

タンバ川渡し、川幅式十丁程、くり

船也、船ちん丁五拾文

善光寺 宿 ぶじ屋左衛門

町屋多し、よき所也

大門より敷石、二王門南向

寺四拾六ヶ寺

本願寺宮様にて御けちみやく請ル、

國郡名前付ル、御寺様待壱人上下二  
て出ル、御十念ヲ請ル、誠ニ難有き

事也

右けちみやく請ル節ハ先え咄し、式

人にて半紙壹状くらの進物上ル、

代七拾式文位

本堂 東西十八間  
南北三十間

石燈籠  
金燈籠  
其数不知

御本尊三國傳來あみた仏

善光、善祐誕生前

本尊下やえ下りて、かいたん廻りと

いふてしんのやみなり、三べん廻ル、

是則めいとかうせんの道と傳ふると

かや

定額山善光寺

名物そばまん中、たばこ、きうひ餅、

梅かんろつけ

善光寺より戸隠山迄五り

四月十三日 くもり

善光寺より戸かくし山御本殿四り、

道中ニ茶屋式ヶ所有、大門前ニやと

屋、茶屋有、奥院迄三十丁、雪たん

と有、御山内しんしんとして後ニ高

キ石屏風之如し

戸隠大權現社

九頭龍大權現社

兩社共御穴えかけ造り也

御穴ノ中え毎日ごくうを壱升三合

ツ、献ス

此日もとりて善光寺ニ泊り

四月十四日 雨天

善光寺より丹波しまえ壱り十式丁

追分よりやしろへ壱り

やしろより戸倉へ壱り半

宿 松崎平左衛門  
宿 升田屋久左衛門

下戸倉よりさかきへ壱り半

宿 油屋庄兵衛  
宿 鳥居屋十郎兵衛

さかきより上田へ三り

宿 中津四五衛門  
宿 油屋徳兵衛

上田よりうんのへ式り

宿 井筒屋惣平  
宿 松屋傳八泊り

御城 松平伊賀守 五万石

此松屋傳八方にて岡田より廻し荷、  
藏敷六文拂てうけ取

四月十五日

うんのより田中え十八丁

宿 大島屋六左衛門  
中島屋安衛門

田中よりこむろ忒り半

宿 菊屋栄治

小諸より追分へ三り半

宿 小く屋吉衛門  
上田卯藤太

追分よりくつかへ忒り三丁

宿 失念ス、六條御殿宿かよし

くつかけよりかるい沢へ忒り五丁

宿 つた屋清藏  
ぎく屋善次郎

かるい沢より坂本へ三り

宿 江戸屋市平

うすい峠上り十八丁下り忒り半

四月十六日

◇ 信濃 國境  
上野

熊野三所大權現

社家たんと有

坂本より横川え忒り余

御関所

横川二茶屋有、めうきへ忒り半

◇ 右妙義道

妙義山御本社 社領三百石 唐銅鳥

居

奥ノ院石山高し、奥ノ院ハ先達案内

ス、行詰てよき茶屋たんと有、妙義

山え

少し之廻り、必も參詣可致

妙義より松井田え三十丁

松井田よりあきまえ忒り

宿まゝた又兵衛泊り

◇ 右江戸通  
左春名道

四月十七日

あきまより春名え四り

よきやと屋あり

此邊にて絹るいうりたかる、かなら

す買へからず、品あし、直段高印也

春名山大權現

國々の御師有、泊りてよし

かん石風景筆紙二尽かたし、其数不

知

妙義、春名兩山必も參り可申事

春名よりむろたへ三り

むろたより高崎へ四り

此むろたもよき泊り有

高崎よりくらかのへ忒り十九丁

宿さかへ屋林平

御城 松平右京亮

四月十八日 雨天

此邊ぎぬるい必買へからず

くらかのより玉村へ忒り半

◇ 右江戸道 船渡し四文  
左日光道

玉村より五料え壱り半

五料よりしばえ壱り

前なる茶屋にて御関所手形ヲもろふ

此茶屋にて茶漬ヲべル

船渡し式十文也

しばより木崎へ二り廿八丁

木崎より太田え壱り三十丁

太田よりやきへ式り十丁

宿はせを屋翁助

四月十九日

やきよりやなたえ壱り

やなたよりさのへ式り

さのよりとみたへ三り半

さのより壱り半行、岩船道二十丁と

有、是よりいわふねえかけへし

岩船地藏 大堂、三重堂、奥ノ院

船ノ形之大石之上ニ地藏尊

大門之前ニよき宿屋有

此所より大平山いつる、山えかけへ

し、此日大雨ニ付大ひら山いつる、

山ヲかけす必も参り可申事

とみたよりとちきへ一り半

宿松本屋泊り

四月廿日

とちきよりかんせんばえ三十丁

宿いつりや忠兵衛

合戦場より金さきえ一り八丁

船渡し十式文

金さきよりにれんぎへ一り半

にれんぎよりなさ原へ壱り半

宿みの屋三郎衛門

なさ原よりかぬまへ一り六丁

かぬまよりふはさみえ三十丁

此かぬま水沼半兵衛宿より宇野宮箱

屋仙衛門迄荷物送り

宇野宮宿は蚊屋仲摩定宿、此所中食、

日光さしていそく

ふはさみより板はしえ式り

板はしより今市へ二り

今市より日光え式り

宿升之屋五郎治泊り

四月廿一日

東照宮

若宮

日光山之儀言語道断

中も中々恵なれば紙筆難尽、九ツ時

拜見相濟、升之屋五郎治にて中食

日光より今市へ式り

今市より大沢え式り

大沢より徳治良え式り

徳治良より宇野宮え三り

宇野宮宿箱屋仙衛門泊り

此はこやにてかぬまより廻し荷物受

取、此所え荷物廻し置故、日光より

いそぎいそへて宇野宮迄

四月廿二日

宇野宮とうしやう宿忒り

宇津宮大明神

とうしやう宿よりうばかへ忒り

うばかへよりもとぎへ忒り

もとぎより長倉へ忒り

此日大雨にて我等共とふ龍仕候

もとぎの油屋吉兵衛泊り

(四月二十三日)

長倉より船二乗り

戸村迄舟せん百文、役せん拾忒文

戸村より額田え忒り

額田にて同行一どふいつミや半兵衛

にて酒肴汲かわし、いろいろ品々し

やれ申候

是より手紙出ス、宿二むかいのもの

まいり仕候

此日目出度、以上

(改頁)

此之西國道中記

何方へまいり候ても

我等え方へ御かいし被下

宜敷奉願上候

下土木内村

天保三年西国道中記

---

2002年10月 初版制作

2004年5月 再版制作

2017年2月28日 三版制作

著者 大内忠三郎

編者 古文書学習会 日立市郷土博物館内

---

三版制作にあたって判型やレイアウト、表記方法を変更しました。

(島崎和夫)